DATA PROJECTOR
データプロジェクター

XJ-UT331X/XJ-UT351W/ XJ-UT351WN*

*ネットワークモデル

取扱説明書

- 必ず「安全上のご注意」および「使用上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も大切に保管してください。
- 本書の最新版は下記ウェブサイトに公開されております。
  http://world.casio.com/manual/projector/

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

この装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しています。

CASIO

- DLPは、米国テキサス・インスツルメンツ社の登録商標です。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- PJLinkは、日本、米国その他の国や地域における出願商標または登録商標です。
- CrestronおよびCrestron Connectedは米国Crestron Electronics, Inc.の登録商標です。
- AMXは米国AMX LLCの登録商標です。
- XGAは、米国IBM Corp. の登録商標です。
- その他本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの技術を使用しています。

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本製品使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理などに起因するデータの消失による、損害および逸失利益などにつきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に使用されている表示画面は、取扱説明書用に特別に作成されたもので、一部、実際の製品と異なることがあります。

目次

安全上のご注意 6

使用上のご注意 11

光源ユニットについて 11
レンズをのぞかない 11
レーザーと高温にご注意(製品ラベルをご確認ください) 12
無線アダプターYW-40(別売品)の使用に関するご注意 13
その他のご注意 14
本体の移動時のご注意 15

準備 16

内容物のご確認 16
投映までの操作の流れ 16
各部の名称 17
端子部 18
設置する 19
設置場所に関するご注意 19
外部機器との接続 19
無線アダプターカバー(YW-40付属品)について 21
ケーブルカバーの取り付けと取り外し 21
リモコンについて 22

各種操作 23

投映時の映像と音声の基本操作 23
基本操作一覧 23
入力ソースについて 25
ライトコントロール 26
デジタルスクリーンシフト 26
テストパターンの投映 27
音声入力の変更 27
操作パネルロック 28
リモコンIDとプロジェクターIDの設定 28

プレゼンテーションタイマーを使う(TIMER) 29
タイマーを表示するには 29
タイマーファンクションメニューを表示するには 29
タイマーの各種設定を変更するには 29
計時の各種操作 30
設定メニューを使う(MENU) 30
設定メニュー項目一覧 30
パスワード機能の利用 35
ご自分のパスワードを忘れてしまった場合には 35
USBメモリーデバイスからの投映(ネットワークモデルのみ) 36
再生可能ファイル一覧 36
接続可能なUSBメモリーデバイスについて 36
本機に USB メモリーデバイスを接続する 36
USBメモリーデバイス上のファイルを投映する 37
画像ファイル投映中の操作 37
動画ファイル投映中の操作 38
ファイルビューアー設定項目一覧 38
ファイル一覧表示中の各種操作 39
オートラン機能 39
ファイルビューアーのトラブルシューティング 40
ファイルビューアーのエラーメッセージ一覧 40
関数電卓画面の投映 41
関数電卓の画面を投映するには 41
クリーニングについて 42
本機外部のクリーニング 42
レンズのクリーニング 42
吸気口などのクリーニング 42
故障かな？と思ったら 43
インジケーター表示について 43
エラー発生時の各種表示について 43
本機のトラブルと対処について 45

補足情報.....47
外部機器への給電について.....47
ファームウェア更新、ユーザーロゴ転送について.....47
本機を壁に設置する.....48
MONITOR OUT端子の利用について.....48
投映距離と投映サイズについて.....49
アスペクト比設定と投映画面について.....50
プロジェクターのRS-232C制御について.....52
仕様.....54

安全上のご注意

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品での表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例


△記号は「気を付けるべきこと」を意味しています。
（左の例は感電注意）


⃠記号は「してはいけないこと」を意味しています。
（左の例は分解禁止）


●記号は「しなければならないこと」を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

本機の使用上のご注意

⚠ 警告

●子供が本機に近づいたり触れたりする可能性がある場合は、必ず大人の管理・監督のもとで使用する

●煙、臭い、発熱などの異常について


煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. 「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店に連絡する。

●故障したまま使用しない


本書に従って正しく使用しても、画面が異常などの故障状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. 「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店に連絡する。

●電源コードについて



電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 必ず付属品を使用する
- 電源は、指定された電源電圧（日本国内では交流100Ｖ）のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐタコ足配線をしない
- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 付属の電源コードを、本機以外の電気機器で使用しない
- 他の電気機器と同じコンセントを使用しない。また、延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意する
- 電源コードを束ねたまま使用しない
- 非常時に電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りに物を置かない
- 電源プラグは、必ずアース付交流100V（日本国内の場合）のコンセントに接続する
- アースの接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行う
- アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行う



電源コードは使い方を誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 重い物をのせたり、加熱しない
- 設置時にラックや壁などにはさみ込んだり、コードの上を敷物などで覆わない
- 加工したり、傷つけたり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない



濡れた手で電源コードや電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。



外出時は、動物・ペットが製品に近づけないようにして、電源コードはコンセントから抜いてください。電源コードに噛みついた場合、ショート（短絡）により、火災の原因となることがあります。

●海外では使用しない

本機は日本国内専用機です。海外では使用できません。

●水、異物はさける



本機に水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。



本機の上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。



水、液体、異物（金属片など）が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. 「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店に連絡する。

●分解・改造しない



本機を分解・改造しないでください。内部には高圧部分が数多くあり、感電・やけど・けがをする原因となります。また、本機を分解・改造した場合は、保証および修理の対象外になります。

内部の点検・調整・修理は「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。

●落とさない、ぶつけない



本機を落としたときなど、破損したまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. 「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店に連絡する。

●火中に投入しない



本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

●本機からの投射光を直接見ない



- 点灯中にレンズ、吸気口、排気口をのぞきこまないでください。また、本機の電源を入れる際は、本機のレンズ、吸気口、排気口をのぞきこむ人がいないことを確認してください。強い光が目に入ると、視力障害などの原因となります。
- ルーペや鏡など光を屈折または反射させるようなものを、本機の投射光が通る範囲内にかざしたり、設置しないでください。投射光が屈折または反射した光が目に入ると、視力障害などの原因となります。

●吸気口、排気口をふさがない



吸気口、排気口をふさぐと本機の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となります。また、使用中に触れるとやけどの原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 本機の正面(投映光が照射される側)は壁(スクリーン)から6cm以上、それ以外の向きは壁から30cm以上離して設置する
- 風通しの悪い場所に押し込まない
- 布などを掛けない
- じゅうたん・布団・タオルなどの柔らかい物の上や、座部の柔らかいイスなどに置いて使用しない(堅い平面に置いて使用してください)
- たてて使用しない

●プロジェクターのキャビネットを開けない



感電の恐れがあります。

●お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く



感電の原因となります。

●排気口部について

投映中は排気口部が高温になりますので、触れないでください。また排気口部の近くは高温になりますので、プラスチック等の高温に弱い物をそばに置いたり、下に敷いたりしないでください。変形や変色する原因となります。

●次の場所での使用はしない

火災・感電の原因となります。

- 振動の多い場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所
- その他、高温や低温の所(本機は5℃～35℃の環境内でご使用ください)

●本機の上に重い物をのせたり、本機の上に乗らない

火災・感電の原因となります。

●水場や風呂場などの水に濡れるところに置かない

●不安定な場所に置かない



ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●台車などの上で使用する場合

車輪をロックしてください。

●雷が鳴ったら、電源プラグに触れない

●リモコンについて



リモコンを分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理は「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。



リモコンに水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

●無線アダプターYW-40(別売品)の電波について

航空機内や病院など、使用を禁止された場所では絶対に使用しないでください。電子機器や医用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

高精度な電子機器または微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、使用しないでください。電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

- ペースメーカー、その他医用電気機器を使用されている方は、医師または医用電気機器メーカーにご相談ください。

●可燃性ガスのスプレーを使わない

本機の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。引火による火災の原因となります。

⚠注意

●電源コードについて

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない(必ず電源プラグを持って抜く)
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 使用後は、本機の電源プラグをコンセントから抜く
- 長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- 電源プラグは年1回以上コンセントから抜いて、電源プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように乾いた布や掃除機で清掃する
- 電源コード(特に電源プラグ部分)の清掃には、洗剤を使用しない
- 本体を移動させる場合は、電源を切り、電源コードを取り外す

●大切なデータは控えをとる

本機に記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。

●投映中にレンズの前に水槽などレンズ効果をもたらす物を置かない

火災の原因となることがあります。

●投映中にレンズの前に光をさえぎるものを置かない

火災の原因となることがあります。

●投映レンズには手を触れない

●無線アダプターYW-40(別売品)について

本体から取り外した状態の無線アダプターを乳幼児の手の届く場所には置かないでください。誤って飲み込んで窒息したり、傷害を負うなどの原因となる場合があります。

電池について

⚠危険

アルカリ電池からもれた液が目に入ったときは、すぐに次の処置を行ってください。

1. 目をこすらずにすぐにきれいな水で洗い流す。
2. ただちに医師の治療を受ける。そのままにしておくと失明の原因となります。

⚠警告

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となります。次のことは必ずお守りください。



- 分解しない、ショートさせない
- 加熱しない、火の中に投入しない

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池を混ぜて使用しない
- 充電しない



- 極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れる

⚠注意

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。



- 本機で指定されている電池以外は使用しない

●使い切った電池は直ちにリモコンから抜く



- 長時間使用しないときは、リモコンから電池を取り外しておく

●電池を廃棄する場合は、必ず地域の条例や自治体の指示に従って廃棄する

磁石について

⚠注意



本機は磁石を内蔵しております。ペースメーカー、その他医療用電気機器を使用されている方は、機器から離して使用してください。万一異常を感じたら、ただちに本機のそばから離れ、医師に相談してください。



本機をフロッピーディスク、磁気カード、磁気テープ、プリペイドカード、切符などの磁気記録媒体に近づけないでください。本機を磁気記録媒体に近づけると、記録を破壊することがあります。

その他

⚠注意

内部にホコリが付着したまま長時間清掃をしないと、輝度の低下や火災、故障の原因となることがあります。1年に一度は、内部の清掃(有償)を、「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。
特に湿気の多くなる梅雨の前に清掃を行うことをお勧めします。

●本機を廃棄する場合は分解を行わず、必ず地域の条例や自治体の指示に従って廃棄する

使用上のご注意

光源ユニットについて

- 本機の光源ユニットには、レーザーおよびLEDを使用しております。
- 光源ユニットの寿命（目安）は、約20,000時間です（光源ユニットの個体差や使用条件、設定メニューの各設定状態などによって差があります）。
- 光源ユニットの保証期間は、保証書記載の製品保証期間または6,000時間のどちらか早い方です。
- 光源ユニットが点灯しなくなった場合や、光源ユニットの明るさが著しく暗くなった場合は光源ユニットの寿命です。「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に交換をご依頼ください。本機を分解・改造した場合は、保証および修理の対象外になります。

レンズをのぞかない



- 点灯中に光源をのぞかないでください。
  特に小さなお子様には充分ご注意ください。



レーザーと高温にご注意(製品ラベルをご確認ください)

レーザーに関するご注意

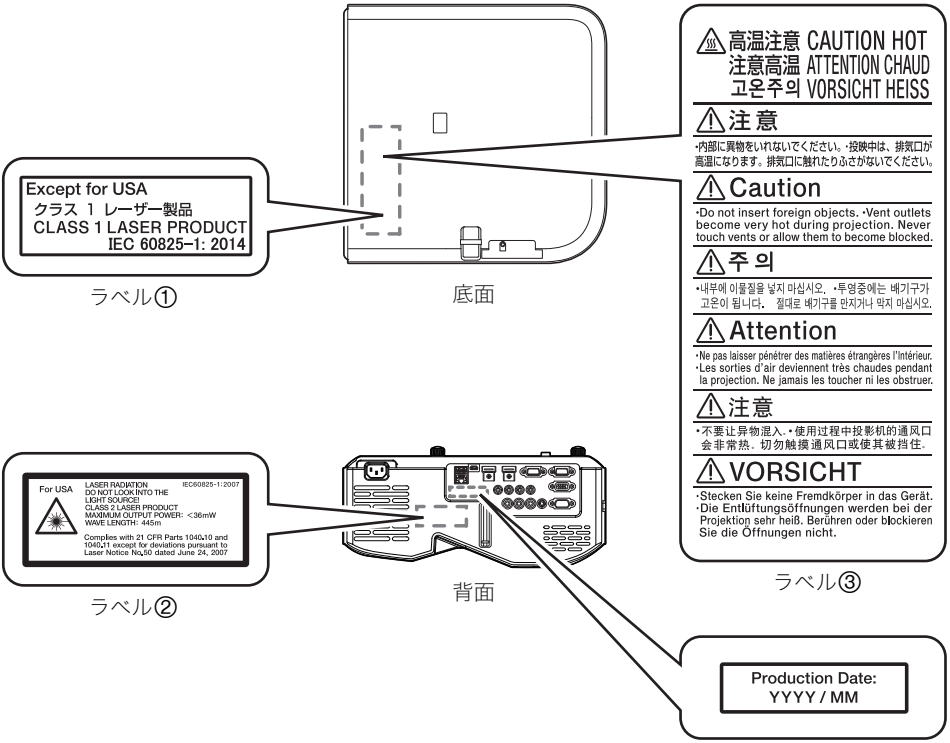
米国以外、ラベル①：本機は、IEC 60825-1: 2014に適合したクラス1レーザー製品です。

米国、ラベル②：本機は、IEC 60825-1: 2007に適合したクラス2レーザー製品です。

- 本機はレーザーモジュールを内蔵しています。分解・改造は危険ですので行わないでください。
- 取扱説明書で指定した以外の手順で操作や調整を行うと、レーザー放射にさらされる原因となることがあり、危険です。

高温にご注意(ラベル③)

	● 投映中は、排気口が高温になります。排気口に触れたりふさがないでください。 ● 内部に異物をいれないでください。



無線アダプターYW-40（別売品）の使用に関するご注意

- **2.4GHz帯使用の無線機器について**
  - 無線アダプターは2.4GHz帯を使用し、変調方式はDS-SSおよびOFDMです。また、想定される与干渉距離は約40mです。
  - 無線アダプターの使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局が運用されています。



  1. 無線アダプターを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  2. 万一、無線アダプターと移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局との間で、電波干渉が発生した場合には、速やかに通信チャンネルを変更するか、使用する場所を変えるか、無線アダプターの使用を停止してください。
  3. 不明な点がある場合やお困りの場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

- **無線アダプターは、電波法に基づいて技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。また、無線アダプターは日本国内でのみ使用できます。**

- **無線アダプターは、技術基準適合証明を受けていますので以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。**
  1. 分解および改造すること
  2. 無線アダプターに貼ってある証明ラベルをはがすこと

- **Bluetoothや無線LANは、無線アダプターと同じ周波数帯（2.4GHz）を使用しています。これらを利用した製品と無線アダプターとの間で、互いに電波障害を与えることがあります。**

- **下記のような環境では、電波状態が悪くなったり、電波が届かなくなったりします。**
  - 電子レンジ等の磁場、静電気、不要輻射電波の発生する機器の近く
  - 鉄筋コンクリート（マンションなど）の建物内
  - 鉄骨構造の建物内
  - 大型金属製家具の近く
  - 各無線機器の間に人が入ったり、間を人が横切るとき
  - 各無線機器が別々の部屋にある場合（障害物がある場合）

- **電波の性質と強さ**
  - 電波には、障害物があると反射したり屈折したりする性質があります。そのため、各無線機器に届く電波には、直接届く直接波と反射して届く反射波があります。
  - 建物内には、多くの家具、品物、壁がありますので、さまざまな反射波が発生します。この反射波によって、電波状態の良い場所と悪い場所ができます。このため、各無線機器を少し動かすと、状況が良くなることがあります。

- **電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受することも考えられます。機密を要する重要な事柄や人命に関わることには使用しないでください。**

その他のご注意

本機は精密な電子部品で構成されています。データが正常に保持できなくなったり、故障の原因になりますので、以下のことに注意してください。

- **次のような場所での使用や保管は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。**
  - 静電気が発生しやすい場所
  - 極端に高温または低温の場所
  - 湿度の高い場所
  - 急激な温度変化が起こる場所
  - ほこりの多い場所
  - ぐらついた場所や傾いた不安定な場所
  - 水に濡れるような場所
  - 油煙や煙の多い場所
  - 塩害のおそれがある場所
  - 温泉から出る硫黄ガスなどの、腐食性ガスが発生する場所

- **リモコン受光部に、蛍光灯や直射日光などの強い光が当たらないようにしてください。誤作動の原因となります。**

- **次のような使用方法は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。**
  - 低温や高温の環境では使用しないでください(5℃～35℃の環境でご使用ください)。
  - 本機の上に重い物をのせたり、本機の上にのらないでください。
  - 本機の中に物を落としたり、入れたりしないでください。
  - 本機の上に花瓶など水が入った物を置かないでください。

- **設置するときや、設置のために底面の操作をするときは、本体の下に手を挟まないようにご注意ください。**

- **消耗した電池をリモコンに取り付けたまま長期間放置しないでください。**

電池が液もれすることがあります。液もれは故障・破損の原因になることがあります。本機の使用頻度にかかわらず、1年に1度は電池を交換してください。

- **お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。**

特に汚れがひどい場合は、中性洗剤に浸した布を固くしぼっておふきください。なお、シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。文字が消えたり、ケースにシミをつけてしまう恐れがあります。

- **画面のドット欠けについて**

本商品は、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、画面の一部に非点灯などのドットが存在することがあります。これは故障ではありません。

- **投映中は本体に衝撃を加えないでください。**

投映中に本体に衝撃を加えると、投映が一時的に途切れた後に、画面の変色やエラーが発生することがあります。

画面が変色した場合は、本体またはリモコンの[INPUT]キーで投映していた入力ソースを選択し直すと、元の色に戻ります。元の色に戻らない場合は、電源を切ってから、再度電源を入れてください。

エラーが発生した場合の対処については、「エラー発生時の各種表示について」(43ページ)を参照してください。

- **コンセントは本製品の近くのものを使用し、簡単に抜き差しできる状態でお使いください。**

● **無線アダプターYW-40（別売品）は、2.4GHz帯のみに対応しています。**

● **台形補正時画質について**

台形補正操作を行うと画像が圧縮されるため、画像が乱れたり画質が低下する場合があります。このような場合は、可能な限り「設置する」（19ページ）のイラストの設置状態に近づけてください。イラストの設置状態に近いほど台形補正は少なくて済み、イラストどおりに設置すれば台形補正は不要となります。

画質を重視する場合は、台形補正機能が不要な位置に設置の上、補正を解除してご使用ください。

- 本機は、24時間連続使用などの長期連続運転での使用や本書で規定しております「設置場所に関するご注意」（19ページ）の設置条件を無視して使用された場合、保証期間であっても有償保証とさせていただきます。
- ご使用になる環境温度が高い場合や、ほこり、油煙、たばこなどの煙が多い環境下では、光学エンジンなどの交換サイクルが短くなる場合があります。その際、光学エンジンなどの交換が必要になることがあります（有償）。交換時期や修理費用などについての詳細は、「修理に関するお問合せ先」までお問い合わせください。

● **結露について**

寒い部屋から暖かい部屋へ本機を急に移動したり、部屋を急激に暖房したなどの要因で、本機のレンズ表面や製品の内部が結露し、投映映像がぼやけたり、故障やトラブルの原因になることがあります。このような場合は、本機の電源を切ってしばらくそのままにしてから、再度電源を入れてください。

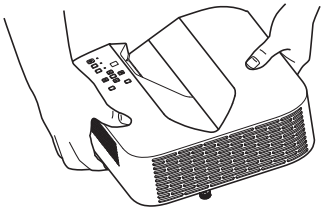
● **外部機器への給電について**

本機から外部機器への給電中に本機の電源を切ると、給電は停止します。また、本機がセルフチェックのため再起動したり、オートパワーオフやエラーなどで電源が切れたりした場合も、給電は停止します。

給電が停止すると、外部機器によっては編集中のデータが消失または破壊されることがあります。本機からの給電を受ける外部機器側で、こまめにデータの保存を行ってください。万一、データの消失や破壊が発生したとしましても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本体の移動時のご注意

動作中および電源を切った直後は、排気口およびその周辺が高温になっております。本機を移動する際は、必ずプロジェクターを図のように持ってください。



内容物のご確認

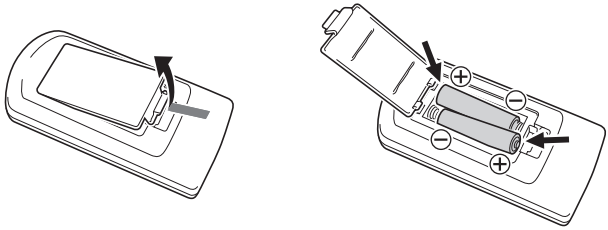
パッケージには以下の内容物が含まれていますので、ご確認ください。

- データプロジェクター本体
- ワイヤレスリモコンYT-131（XJ-UT351WN）
- ワイヤレスリモコンYT-160（XJ-UT331X、XJ-UT351W）
- 試用乾電池（単四×2本）
- 電源コード（ACコード）
- ケーブルカバー
- 「安全上のご注意」
- 「ご使用前にお読みください」
- 保証書

投映までの操作の流れ

本機で投映を開始するまでの操作の流れを説明します。

1. 付属の試用乾電池を、リモコンに入れる。



- 乾電池は必ずアルカリ電池をご使用ください。

2. 周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに、本機を設置する。

- 「安全上のご注意」（6ページ）、「使用上のご注意」（11ページ）
- 「設置する」（19ページ）、「設置場所に関するご注意」（19ページ）

本機を壁掛け設置する場合は、専用金具をお買い求めください。詳しくは、本機ご購入時の販売店にお問い合わせください。

3. 本機の設置角度を調節する。

- 「設置角度の調節」（19ページ）

4. 付属の電源コードを本機のAC端子に接続し、電源プラグをコンセントに接続する。

5. 本機を映像出力機器や音声出力機器と接続し、各機器の電源を入れる。

- 「外部機器との接続」（19ページ）

6. **[⏻]キーを押して、本機の電源を入れる。**

- はじめて本機の電源を入れたときは、投映画面の中央に「言語初期設定」画面が表示されますので、言語を選択してください。

7. **[INPUT]キーを押して、入力ソースを選ぶ。**

- 「入力ソースを選ぶ(INPUT)」(23ページ)

8. **フォーカスレバーを使って焦点を合わせる。**

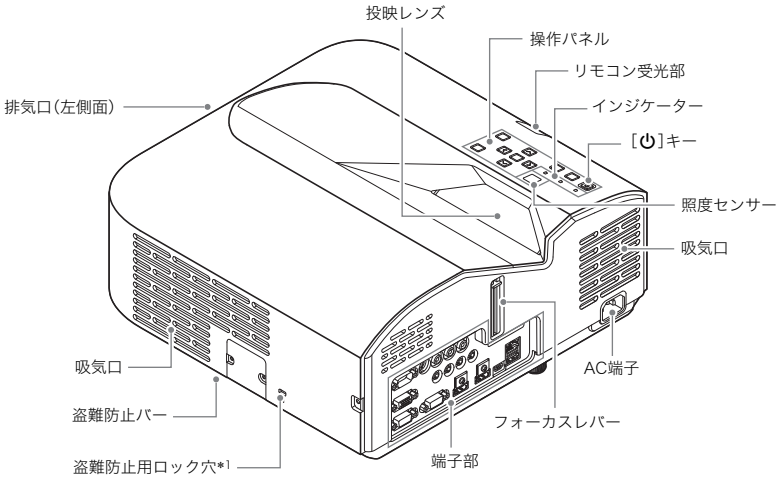
- 「各部の名称」(17ページ)

9. **台形補正や、明るさの調節を行う。**

- 「手動で台形補正する(▲/▼)(KEYSTONE)」(23ページ)、「ライトコントロール」(26ページ)

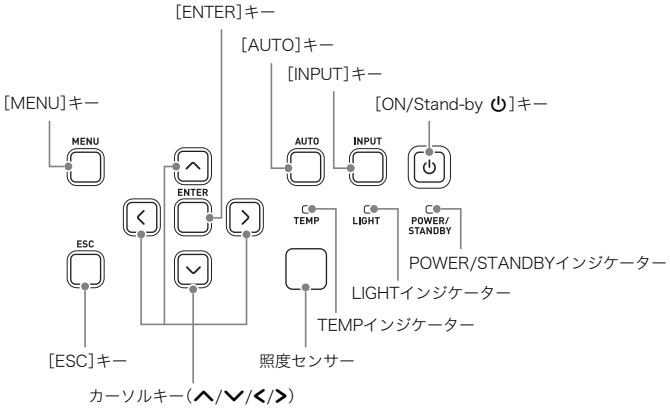
10. **投映を終了するには、[⏻]キーを押して電源を切る。**

各部の名称

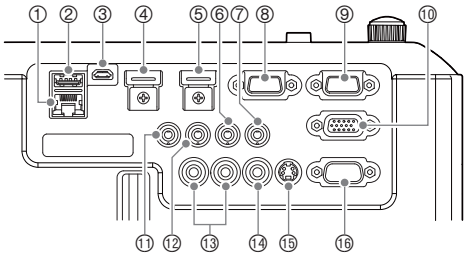


*1 盗難防止用ロック穴は盗難防止用のチェーン等を取り付けるためのものです。ケンジントンロックのホームページ(http://www.kensington.com/)もご覧ください。

操作パネルとインジケーター



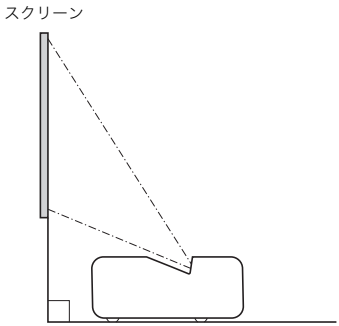
端子部



① LAN端子(ネットワークモデルのみ)
② USB-A(5V/2A)端子(XJ-UT351WN)または
DC(5V/2A)端子(XJ-UT331X/XJ-UT351W)
③ LOGO端子
④ HDMI 2端子(XJ-UT351W/XJ-UT351WNのみ)
⑤ HDMI 1端子
⑥ AUDIO IN 1端子
⑦ AUDIO IN 2端子
⑧ MONITOR OUT端子
⑨ COMPUTER IN 1端子
⑩ COMPUTER IN 2端子
⑪ MIC端子
⑫ AUDIO OUT端子
⑬ AUDIO IN R L端子
⑭ VIDEO端子
⑮ S-VIDEO端子
⑯ SERIAL端子

設置する

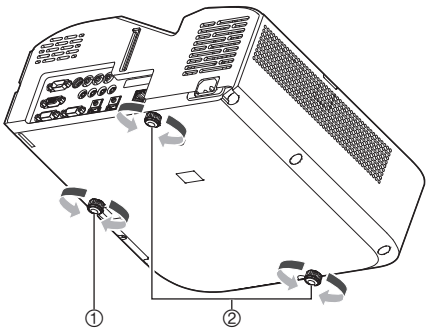
周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに設置してください。投映するスクリーンに対して次のように設置すると、最適な映像を得ることができます。



設置角度の調節

① 底面手前の傾き調整足(1か所)を回し、プロジェクターの仰角を微調整する。

② 底面後方の傾き調整足(2か所)を回し、プロジェクターの左右傾きを微調整する。



テストパターンについて

設置の際にテストパターンを投映すると、投映サイズや本機の傾きなどの確認がしやすくなります。詳しくは「テストパターンの投映」(27ページ)を参照してください。

設置場所に関するご注意

- いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所でお使いください。
- 本機の正面(投映光が照射される側)は壁(スクリーン)から6cm以上、それ以外の向きは壁から30cm以上離して、本機を設置してください。また壁やスクリーンからプロジェクターまでの範囲内には、物を置かないでください。吸気口や排気口付近には、特にご注意ください。
- 空調の風向きにより、レンズ付近に本機の排気熱が当たると投映画面に揺らぎが発生することがあります。その場合、空調の風向きや本機の設置位置を変更してご使用ください。

外部機器との接続

投映を開始する前に、本機をパソコンやビデオ機器、その他の外部機器と接続します。

- 表中の「本機側端子」欄に記載された番号の端子位置は、「端子部」(18ページ)を参照してください。
- 本機に付属していないケーブルは、市販品をご使用ください。また、ケーブルをご用意いただく際は、本機側の端子形状と、相手機器側の端子形状に合うものをお選びください。

映像出力機器との接続

同時に複数の映像出力機器を本機に接続することが可能です。どの機器からの映像を投映するかは、[INPUT]キーを使って指定します。

相手機器／端子の種類	本機側端子	本機側端子の形状	使用ケーブル
パソコン／RGB出力端子	⑨、⑩	ミニD-Sub15ピン・メス	RGBケーブル
ビデオ機器／コンポーネントビデオ出力端子	⑨、⑩	ミニD-Sub15ピン・メス	コンポーネントビデオケーブル

相手機器／端子の種類	本機側端子	本機側端子の形状	使用ケーブル
ビデオ機器／Sビデオ出力端子	⑮	ミニDin 4ピン・メス	S端子ケーブル
ビデオ機器／コンポジットビデオ出力端子	⑭	RCAピンジャック	ピンプラグケーブル
パソコンやビデオ機器／HDMI出力端子	④、⑤	HDMIタイプA・メス	High Speed HDMIケーブル
USBメモリーなどの外部USBストレージ機器*1	②	USBタイプA・メス	*2
関数電卓または電子辞書／USB端子*3	②	USBタイプA・メス	USBケーブル
無線アダプターYW-40（別売品）*4	②	USBタイプA・メス	−

*1 ネットワークモデルのみ接続可能です。接続後の操作については「USBメモリーデバイスからの投映（ネットワークモデルのみ）」（36ページ）を参照してください。
*2 「本機にUSBメモリーデバイスを接続する」（36ページ）を参照してください。
*3 ネットワークモデルのみ接続可能です。関数電卓との接続後の操作については「関数電卓画面の投映」（41ページ）を参照してください。
*4 ネットワークモデルのみ接続可能です。接続後の操作については別冊の「ネットワーク機能ガイド」を参照してください。

音声入力ソースとして使う機器の接続

相手機器／端子の種類	本機側端子	本機側端子の形状	使用ケーブル
パソコン、ビデオ機器、オーディオ機器など／音声出力端子	⑥、⑦	ステレオミニジャック	オーディオケーブル
パソコン、ビデオ機器、オーディオ機器など／音声出力端子	⑬	RCAピンジャック×2	ピンプラグケーブル
マイク*5	⑪	ステレオミニジャック	（マイクのケーブル）

*5 プラグインパワータイプのマイクロフォンには対応していません。

外部ディスプレイや外部スピーカーとの接続

相手機器／端子の種類	本機側端子	本機側端子の形状	使用ケーブル
外部ディスプレイ／アナログRGB入力端子*6	⑧	ミニD-Sub15ピン・メス	RGBケーブル
外部スピーカー／音声入力端子	⑫	ステレオミニジャック	オーディオケーブル

*6 詳しくは「MONITOR OUT端子の利用について」（48ページ）を参照してください。

その他の接続

相手機器／端子の種類	本機側端子	本機側端子の形状	使用ケーブル
パソコンやルーター／LAN端子*7	①	RJ-45・メス	LANケーブル（シールド品（STP）の使用を推奨）
USB端子からの給電を受けることが可能な機器*8	②	USBタイプA・メス	接続相手の電源ケーブルまたはUSBケーブル
パソコンやRS-232Cコントローラ機器／RS-232C端子*9	⑯	D-Sub9ピン・オス	シリアルケーブル（クロス）

*7 ネットワークモデルのみ。詳しくは別冊の「ネットワーク機能ガイド」を参照してください。
*8 詳しくは「外部機器への給電について」（47ページ）を参照してください。
*9 詳しくは「プロジェクターのRS-232C制御について」（52ページ）を参照してください。

無線アダプターカバー(YW-40付属品)について

別売品の無線アダプターYW-40には盗難防止用の無線アダプターカバーが付属していますが、本機には装着できません。本機に無線アダプターを接続した際の無線アダプター盗難防止には、本機に付属のケーブルカバーをご利用ください。

ケーブルカバーの取り付けと取り外し

ケーブルカバーの取り付け、取り外しを行う前に、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。電源を切った直後の場合は、本機が冷却するまでお待ちください。

取り付け方

1. **本機を裏返し、ケーブルカバーのフックを本機のフック穴に差し込む(図1)。**
2. **ケーブルカバーを図2の矢印方向に回転させながら、本機に取り付ける。**
3. **ケーブルカバーのネジを本機のネジ受けに合わせ(図3)、プラスドライバーを使ってネジを締める(図4)。**

取り外し方

1. **プラスドライバーを使ってケーブルカバーのネジをゆるめ、ネジを本機から外す。**
2. **ケーブルカバーのネジ側を本機から外し、ケーブルカバーのフックを本機から抜く。**

図1

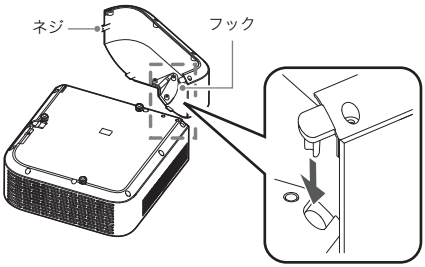


図2

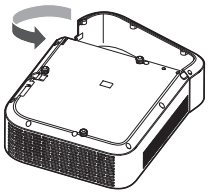


図3

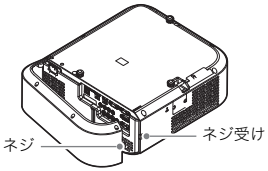
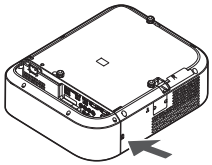
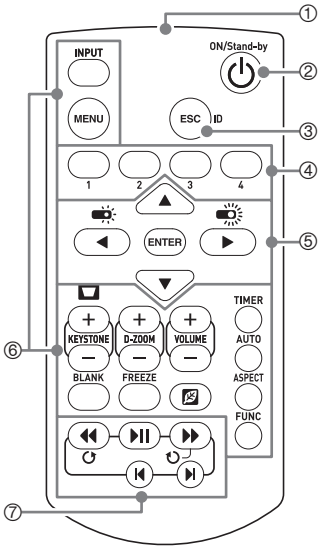


図4



リモコンについて

本機の操作は付属のリモコンで行います。リモコン発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けて、リモコンのキーを操作してください。プロジェクターのリモコン受光部から約5m以内の範囲で操作できます。



① リモコン発光部
② 電源のオン/オフを行うためのキーです。
③ 表示中のメニューを閉じたり、操作をキャンセルしたりするときに押します。
④ リモコンIDの設定に使用するキーです。「リモコンIDとプロジェクターIDの設定」(28ページ)を参照してください。
⑤ [▲][▼][◀][▶](カーソルキー)は、メニュー内で項目間を移動したり、設定値を変更したりするときに使います。[ENTER]キーは、メニュー上で何かを確定したり、機能を実行したりするときに押します。
⑥ 各キー特有の機能を使うときに押します。キーごとの機能については、「投映時の映像と音声の基本操作」(23ページ)、「プレゼンテーションタイマーを使う(TIMER)」(29ページ)、「設定メニューを使う(MENU)」(30ページ)を参照してください。
⑦ ネットワークモデルのみで使用するキーです。主に、ファイルビューアー(36ページ)を使った投映操作に使います。

重要

- 電池が消耗しますので、保管時はキーが押されないようにご注意ください。

メモ

- 改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

各種操作

ここで説明する操作は、特に断りがない限りはリモコンを使って行います。本体にリモコンと同じキーがある場合は、本体、リモコンのどちらのキーを使っても同じ操作が可能です。

投映時の映像と音声の基本操作

基本操作一覧

下記操作を終了したいときは、[ESC]キーを押します。

これをするには:	この操作を行う:
入力ソースを選ぶ(INPUT)	1. [INPUT]キーを押す。 2. [INPUT]、[▲]または[▼]キーを使って希望する入力ソース名を選び、[ENTER]キーを押す。 ● [ENTER]キーを押さなくても、入力ソース名を選んで約3秒経過すると、自動的にその入力ソースに切り替わります。 ● 選択された入力ソースの名前が数秒間、投映画面の右上に表示されます。入力信号が検出できなかった場合は、「入力信号がありません」と表示されます。 入力ソースの選択肢などについて詳しくは、「入力ソースについて」(25ページ)を参照してください。
ライト出力を調節する	「ライトコントロール」(26ページ)を参照してください。
手動で台形補正する(▲/▼)(KEYSTONE)	1. 投映画面にメニューやダイアログが表示されていないときに、プロジェクター本体の[▲]または[▼]キーを押すか、リモコンの[KEYSTONE+]または[KEYSTONE−]キーを押す。 2. 縦方向の台形補正を行うには[▲]または[▼]キーを、横方向の台形補正を行うには[◀]または[▶]キーを押す。 ● 調整が可能なのは、縦方向と横方向それぞれ±5°の範囲内です。
投映中の映像の一部を拡大する(D-ZOOM)	1. [D-ZOOM +]キーを押して、投映画面の中心部を拡大表示する。 2. 投映画面をさらに拡大するには[D-ZOOM +]キーを、拡大中の投映画面を縮小するには[D-ZOOM −]キーを押す。 3. 拡大中の投映画面を上下左右にスクロールするには、[▲]、[▼]、[◀]、[▶]キーを押す。
入力ソースからの映像と音声を一時的に遮断する(BLANK)	1. [BLANK]キーを押す。 ● 入力ソースからの映像と音声が遮断され、設定メニューの「ブランク時画面」(31ページ)で設定されている画面が投映されます(「ブランク時画面」として「ブラック」が選択されている場合は、投映ライトが消灯します)。 ● 手順2の操作を行うまで、オートパワーオフは動作しません。 2. 映像と音声を元に戻すには、[BLANK]、[ESC]、または[⏻]キーを押す。 ● ただし[⏻]キーは、「ブランク時画面」として「ブラック」が選択されている場合のみ使用できます。
映像を静止させる(FREEZE)	1. [FREEZE]キーを押す。 ● 入力ソースからの映像がその時点で静止します。 2. 入力ソース映像に戻すには、[FREEZE]または[ESC]キーを押す。
映像を自動調整する(AUTO)	1. [AUTO]キーを押す。 ● 周波数と位相の自動調整が実行されます。投映映像のちらつきなどが低減されることがあります。RGB信号の投映中のみ有効です。

これをするには:	この操作を行う:
投映画面の縦横比(アスペクト比)を切り替える(ASPECT)	1. [ASPECT]キーを押す。 ● 押すたびに、次の順番でアスペクト比設定が切り替わります。各設定の意味は、「アスペクト比の各設定について」(24ページ)を参照してください。 ● **入力ソースがRGBまたはHDMI(PC)の場合** WXGAモデル:「標準」→「フル」→「16:9」→「4:3」→「リアル」 XGAモデル:「標準」→「フル」→「16:9」→「16:10」 ● **入力ソースがビデオ、S-ビデオ、コンポーネント、HDMI(DTV)の場合** WXGAモデル:「標準」→「16:9」→「16:10」→「4:3」→「レターボックス」 XGAモデル:「標準」→「16:9」→「16:10」→「4:3」 **重要** ● 営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、本機能により画面の拡大や縮小を行うと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意ください。
映像に適した色調(カラーモード)を選ぶ(FUNC)	1. [FUNC]キーを押すと表示されるメニューで「カラーモード」を選び、[ENTER]キーを押す。 2. [▲]または[▼]キーを押して希望する項目を選択し、[ENTER]キーを押す。 ● 各選択肢の意味については、「映像調整1→カラーモード」(30ページ)を参照してください。 ●「ライトコントロール」(26ページ)で「オフ」が選択されている場合は、カラーモードを選ぶことはできません。
音量を調整する(VOLUME)	1. [VOLUME +]または[VOLUME −]キーを押して、「音量」ダイアログを表示する。 2. 音を大きくするには[VOLUME +]キー、小さくするには[VOLUME −]キーを押す。
消音(ミュート)する(VOLUME)	1. [VOLUME +]または[VOLUME −]キーを押して、「音量」ダイアログを表示する。 2. [ENTER]キーを押して、消音状態(ミュート状態)に切り替える。 3. 音声出力を元に戻すには、[VOLUME +]または[VOLUME −]キーを押す。

アスペクト比の各設定について

標準	入力信号のアスペクト比を維持した上で、本機で投映可能な最大サイズで投映します。
フル	本機で投映可能な最大サイズに、入力信号を拡大/縮小して投映します。
16:9	縦横比16:9(映画やハイビジョンなどの画面比率)で表示します。入力信号が16:9を4:3にスクイーズ(圧縮)したビデオ映像である場合に選択すると、縦横比の正しい映像が表示されます。
16:10	縦横比16:10で表示します。縦横比16:10のスクリーンに合わせて投映する際にご利用ください。
4:3	入力信号のアスペクト比にかかわらず、4:3のアスペクト比に強制的にリサイズして投映します。
リアル	入力ソースの1ドットと本機の出力画素の1ドットが一致するように投映します。入力信号の解像度が本機の出力解像度を超える場合、超過部分は切り取られます。なお解像度がSVGA未満のRGB信号を「リアル」の設定で投映した場合は、SVGAに拡大して投映されます。
レターボックス	入力信号のアスペクト比を維持したまま、横方向のサイズが1280ドットになるようにリサイズし、縦方向はリサイズ後の中央部の800ドット分を投映します。

アスペクト比設定に応じた投映画面の表示状態について詳しくは、「アスペクト比設定と投映画面について」(50ページ)を参照してください。

入力ソースについて

[INPUT]キーを使って入力ソースを選ぶことで、どの端子からの映像入力を本機から投映するかを決めます。このとき同時に、どの端子からの音声入力が本機から出力されるかも、自動的に決まります。

入力ソースの選択肢は、下表のとおりです。表中に記載された番号に該当する端子の位置は、「端子部」(18ページ)を参照してください。

この入力ソースを選択すると:	この端子からの映像入力を出力:	この端子からの音声入力を出力(初期設定時):
Computer 1(RGB 1)	⑨COMPUTER IN 1(RGB信号入力時)	⑥AUDIO IN 1
Computer 1(コンポーネント1)	⑨COMPUTER IN 1(コンポーネント信号入力時)	⑥AUDIO IN 1
Computer 2(RGB 2)	⑩COMPUTER IN 2(RGB信号入力時)	⑦AUDIO IN 2
Computer 2(コンポーネント2)	⑩COMPUTER IN 2(コンポーネント信号入力時)	⑦AUDIO IN 2
S-ビデオ	⑮S-VIDEO	⑬AUDIO IN R L
ビデオ	⑭VIDEO	⑬AUDIO IN R L
HDMI 1	⑤HDMI 1	⑤HDMI 1
HDMI 2*1	④HDMI 2	④HDMI 2
ファイルビューアー*2	②USB-A(USBメモリーなどの接続時)	②USB-A
CASIO USBツール*2	②USB-A(関数電卓または電子辞書の接続時)	⑥AUDIO IN 1
ネットワーク*2	②USB-A(無線アダプターYW-40の接続時) または①LAN(有線LAN接続時)	②USB-Aまたは①LAN

*1 XJ-UT351W / XJ-UT351WNのみ
*2 ネットワークモデルのみ

表示に対応した信号について

本機の対応信号については、弊社ウェブサイトにてご確認ください。

音声入力の変更について

各入力ソースには、上記の表に記載された初期設定の音声入力端子以外に、AUDIO IN 1端子、AUDIO IN 2端子、またはAUDIO IN R L端子のいずれかを割り当てることができます。詳しくは、「音声入力の変更」(27ページ)を参照してください。

解像度について

プロジェクターの投映解像度は、機種によってXGA(1024×768ピクセル)またはWXGA(1280×800ピクセル)に固定されています。パソコンからの入力信号が、プロジェクターの投映解像度と一致していない場合、画像が粗くなったり、文字などが見えにくくなったり、格子状の干渉縞(モアレ)が現れたりすることがあります。このような場合は、次の操作をお試しください。

- パソコンの出力解像度をご使用のプロジェクターの投映解像度に合わせて設定し、投映する。ご使用のプロジェクターの投映解像度は、「仕様」(54ページ)を参照してください。パソコンの設定方法については、パソコンの取扱説明書等をご覧ください。
- 投映解像度がWXGAの機種をご使用の場合は、アスペクト比の設定を「リアル」に切り替える。「リアル」の設定では、入力信号が実サイズのまま(入力ソースの1ドットと本機の出力画素の1ドットが一致するように)投映されます。
  アスペクト比の切り替えの操作について詳しくは、「投映画面の縦横比(アスペクト比)を切り替える(ASPECT)」(24ページ)を参照してください。

ライトコントロール

ライトコントロールは、本機のライト出力（光源ライトの輝度）を調節する機能です。設定メニューの「ライトコントロール」（32ページ）が「オン」（初期設定）のとき、ライト出力を7段階で調節することが可能です。また設定メニューの「明るさセンサー」（32ページ）を「オン」にすると、周囲の明るさに応じて自動的にライト出力が調節されます。

メモ

- 光源ライトを最大輝度で使用したい場合は、設定メニューの「ライトコントロール」を「オフ」にします。「オフ」にすると、ライト出力は変更できなくなり、明るさセンサーが無効になります。

下記操作を終了したいときは、[ESC]キーを押します。

これをするには：	この操作を行う：
ライト出力を調節する	1. 投映画面にメニューやダイアログが表示されていないときに、[◀]または[▶]キーを押す。 ● 現在のライト出力（1～7）が表示されます。 2. ライト出力を調節するには、[◀]または[▶]キーを押す。

デジタルスクリーンシフト

投映画面を縦横等比で縮小し、投映位置を上下左右に移動することが可能です。プロジェクターを移動せずに、投映サイズや投映位置を調整したいときに便利な機能です。

これをするには：	この操作を行う：
投映サイズや投映位置を調整する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 「画面設定」→「デジタルスクリーンシフト」→「デジタルスクリーンシフトの変更」の順に選び、[ENTER]キーを押す。 ● 「デジタルスクリーンシフト」ダイアログが表示されます。 3. [D-ZOOM －]、[D-ZOOM ＋]キーを使って投映画面のサイズを84%～100%の間で調整する。 ● 100%よりも小さい値に変更すると、投映画面の位置移動が可能となります。位置を移動したい場合は、100%よりも小さい値にしたうえで、手順4と5の操作を行ってください。100%にした場合は、手順5に進んでください。 4. 投映画面の位置を縦方向に移動するには[▲]または[▼]キーを、横方向に移動するには[◀]または[▶]キーを押す。 5. 調整が済んだら[ESC]キーを押してダイアログを閉じ、[MENU]キーを押して設定メニューを閉じる。
調整後の投映サイズと投映位置を初期化する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 「画面設定」→「デジタルスクリーンシフト」→「デジタルスクリーンシフトの初期化」の順に選び、[ENTER]キーを押す。 3. [▲]キーを押して「はい」を選び、[ENTER]キーを押す。

テストパターンの投映

「無信号時画面」(31ページ)や「ブランク時画面」(31ページ)として、本機にテストパターンを投映させることが可能です。投映画面の各種調整(位置、サイズ、台形補正、フォーカス、アスペクト比設定、デジタルスクリーンシフトなど)の際にご利用ください。テストパターンは、本機を壁に設置した後の微調整用としても便利です。

これをするには:	この操作を行う:
無信号時にテストパターンが投映されるように設定する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 「画面設定」→「無信号時画面」の順に選び、[◀]または[▶]キーを使って「テストパターン」を選ぶ。 3. [MENU]キーを押して設定メニューを閉じる。
ブランク時にテストパターンが投映されるように設定する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 「画面設定」→「ブランク時画面」の順に選び、[◀]または[▶]キーを使って「テストパターン」を選ぶ。 3. [MENU]キーを押して設定メニューを閉じる。
テストパターンを投映する	● 無信号時にテストパターンが投映されるように設定した場合は、[INPUT]キーを使って本機への入力信号がない入力ソースを選ぶ。 ● ブランク時にテストパターンが投映されるように設定した場合は、[BLANK]キーを押す。

重要

● テストパターンの投映中は、オートパワーオフ機能(32ページ)は無効となります。

音声入力の変更

入力ソースを選択すると、その入力ソースに対応した映像入力端子からの映像と、音声入力端子からの音声が本機から出力されます。各入力ソースに対応した映像入力端子は固定されていますが、音声入力端子については、初期設定以外の端子(AUDIO IN 1端子、AUDIO IN 2端子、AUDIO IN R L端子のいずれか)を割り当てることが可能です。

これをするには:	この操作を行う:
入力ソースごとの音声入力を変更する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 「機器設定2」→「音声入力」の順に選び、[ENTER]キーを押す。 3. [▲]または[▼]キーを押して、音声入力の設定を変更したい入力ソースを選ぶ。 4. [◀]または[▶]キーを押して、選択した入力ソースに割り当てたい音声入力を選ぶ。 5. 手順3、4の操作を、必要なだけ繰り返す。 6. 設定が済んだら、[MENU]キーを押して設定メニューを閉じる。
入力ソースごとの音声入力をすべて初期設定に戻す	設定メニューの「機器設定2」→「機器設定2の初期化」を実行する。 ● 実行すると、音声入力の設定だけでなく、「機器設定2」に含まれるすべてのメニュー項目の設定が、初期設定に戻りますのでご注意ください。

入力ソースごとの初期設定の音声入力端子については、「入力ソースについて」(25ページ)を参照してください。

操作パネルロック

プロジェクター本体の[⏻]キーを除くすべてのキー操作を無効にする(ロックする)機能です。プロジェクターはリモコンからの操作だけを受け付けるので、本体キーに対する誤操作などを防止できます。

これをするには:	この操作を行う:
操作パネルロックを有効(オン)にする	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2.「機器設定2」→「操作パネルロック」の順に選択する。 3. [◀]キーを押して「オン」を選び、表示される確認ダイアログで[ENTER]キーを押す。 ● [⏻]キーを除くプロジェクター本体のキーがロックされます。 4. 設定メニューの操作を終了するには、[MENU]キーを押す。
操作パネルロックを解除する	次のいずれかの操作を行う。 ● 投映画面にメニューやダイアログが表示されていないときに、プロジェクター本体キーの[▼]キーを押し続け、「操作パネルのロックが解除されました。」というメッセージが表示されたら放す。 ● リモコンを使って解除する場合は、上記の「操作パネルロックを有効(オン)にする」の手順3で[▶]キーを押して「オフ」を選び、[MENU]キーを押す。

リモコンIDとプロジェクターIDの設定

リモコンIDとプロジェクターIDは、1〜4の間の番号です。双方のIDが一致している場合は、本機に対するすべてのリモコン操作が可能となります。本機を複数台(4台以内)、同じ室内など近接した場所で使う際に、リモコン操作の混線を避けるための機能です。リモコンIDとプロジェクターIDは、工場出荷時にはいずれも「オール」(相手側のID設定に関わらずリモコン信号の送受信可能な状態)に設定されています。

下記操作のうち、「リモコンIDを設定する」操作は、リモコンだけで操作可能です(本機の電源が入っていなくても構いません)。その他の操作は、本機が投映中の状態から開始してください。

これをするには:	この操作を行う:
リモコンIDを設定する	リモコンの[ESC]キーを押したまま、次のいずれかのキーを押す。 ● [1]、[2]、[3]、または[4]キー:リモコンIDを押したキーの番号に設定 ● [MENU]キー:リモコンIDを「オール」に設定
プロジェクターIDを設定する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2.「機器設定1」→「プロジェクターID」の順に選び、[ENTER]キーを押す。 3. [▲]または[▼]キーを押して1〜4または「オール」を選び、[ENTER]キーを押す。
リモコンIDとプロジェクターIDを確認する	リモコンの[ESC]キーを押したまま [INPUT]キーを押すと、投映画面にリモコンIDとプロジェクターIDが約10秒間表示されます。この操作は、リモコンIDとプロジェクターIDが一致していない場合でも可能です。

プレゼンテーションタイマーを使う(TIMER)

プレゼンテーションの残り時間を計るためのタイマーを、投映画面上に表示することができます。

タイマーを表示するには

投映画面にタイマーが表示されていないときに、[TIMER]キーを1回押します。
タイマー表示は約5秒後に自動的に消えます(「連続表示」の設定が「オフ」の場合)。

タイマーファンクションメニューを表示するには

投映画面にタイマーが表示されていないときは[TIMER]キーを2回、表示されているときは1回押します。

タイマーの各種設定を変更するには

1. タイマーファンクションメニューを表示する。

2. [▼]または[▲]キーを使って「表示位置」、「連続表示」、「設定時間」を順次選択し、必要に応じて現在の設定を変更する。

これをするには:	この操作を行う:
タイマーの表示位置を変更する	「表示位置」を選択し、[◀]または[▶]キーを使って「右下」、「右上」、「左上」、「左下」のいずれかを指定します(初期設定:右下)。
タイマー表示を自動的に消すか、消さないかを指定する	「連続表示」を選択し、[◀]または[▶]キーを使って「オン」または「オフ」を指定します(初期設定:オフ)。 オン:投映画面上にいったんタイマーが表示されると、その他のダイアログが表示されたり、[ESC]キーを押したりしない限りは、タイマーは表示されたままになります。 オフ:投映画面にタイマーが表示されてから5秒経過すると、タイマーは自動的に消えます。
タイマーのカウントダウン時間を設定する	「設定時間」を選択し、[◀]または[▶]キーを使って希望するカウントダウン時間を指定します。 5分～60分の5分刻みで設定できます(初期設定:20分)。

3. 変更を保存してタイマーファンクションメニューを閉じるには[ESC]を押す。

- 変更後の設定ですぐに計時を開始するには、[ESC]キーを押す前に[▼]または[▲]キーを使って「タイマー開始」を選択し、[ENTER]キーを押します。

計時の各種操作

下記操作はすべて、タイマーファンクションメニュー(29ページ)を表示した状態で行ってください。

これをするには:	この操作を行う:
計時を開始する	「タイマー開始」を選択し、[ENTER]キーを押す。 ● タイマーファンクションメニューが消えて、タイマーによる計時(カウントダウン)が開始されます。 ● タイマーが00:00に達すると、その後60分間はカウントアップが行われます(−00:01〜−60:00)。カウントアップ中は時間が赤字で表示されます。
計時を一時停止するには	「タイマー一時停止」を選択し、[ENTER]キーを押す。
一時停止中の計時を再開する	「タイマー再開」を選択し、[ENTER]キーを押す。
タイマーをリセットする	「タイマーリセット」を選択し、[ENTER]キーを押す。 ● 計時がリセットされ、「設定時間」で設定されているカウントダウン時間に戻ります。

設定メニューを使う(MENU)

[MENU]を押すと、投映画面に設定メニューが表示されます。このメニュー内の項目を使って投映画質(明るさやコントラストなど)を調整したり、本機の動作設定を変えたりすることができます。

設定メニュー項目一覧

- メニュー項目名の後に(RCV)のような記載のあるものは、特定の入力ソースの選択時に限り利用可能な項目です。(　)内のアルファベットは、そのメニュー項目が利用可能な入力ソースを表します。
  R:RGB入力、**C**:コンポーネント入力、**V**:Sビデオ入力またはビデオ入力、**H**:HDMI(PC)入力、**D**:HDMI(DTV)入力、**F**:ファイルビューアー*1、**T**:CASIO USBツール*1、**N**:ネットワーク*1
  *1　ネットワークモデルのみ
- (　)の記載がないメニュー項目は、どの入力ソースの選択時でも利用可能です。
- メニュー項目名後の **N** は、ネットワークモデルのみに搭載された項目です。
- アスタリスク(*)が付いている選択肢は、初期設定を表します。

メニュー項目名	できること
映像調整1→明るさ	映像の明るさを調整します。
映像調整1→コントラスト	映像のコントラストの強弱を調整します。
映像調整1→シャープネス(V)	映像の輪郭の強さを調整します。設定値が大きいほど輪郭が強調されて映像がシャープになり、小さいほど輪郭がぼやけたソフトな感じになります。
映像調整1→色の濃さ(V)	映像の色の濃さを調整します。設定値が大きいほど色が濃くなり、小さいほど淡くなります。
映像調整1→色合い(V)	映像の色合いを調整します。設定値が大きいほど青味がかり、小さいほど赤味がかった映像となります。信号がNTSCまたはNTSC4.43の場合に設定できます。
映像調整1→カラーモード	映像のカラーモードを「スタンダード*」、「グラフィックス」、「シアター*」、「黒板」、「ナチュラル」の中から選べます。 **メモ** ● 初期設定は、入力ソースがSビデオ、ビデオ、コンポーネント、HDMI(DTV)の場合は「シアター」になります。その他の入力ソースでは「スタンダード」が初期設定です。
映像調整1→カラーバランス	映像のカラーバランスを、プリセット3種(「暖色系」「標準*」「寒色系」)から選べます。赤、緑、青のカラー別調節も可能です。
映像調整1→ライトコントロールオフモード	「機器設定1→ライトコントロール→ライトコントロール」が「オフ」のときの映像画質を、「ブライト」(明るさ優先)または「ノーマル*」(明るさよりも色合い優先)のいずれかから選べます。

メニュー項目名	できること
映像調整1→映像調整1の初期化	投映中の入力ソースに対する映像調整1メインメニュー内の全項目を初期化します。
映像調整2→垂直位置(RCV)	投映範囲に対する入力ソース映像の垂直位置、水平位置をそれぞれ調整します。
映像調整2→水平位置(RCV)	
映像調整2→周波数(R)	入力ソースとしてRGB入力を選択している場合で、投映画面に縦帯が出る場合は、周波数が正しく設定されていません。このような場合に、本項目を手動で設定します。なお周波数の設定を行った結果、パソコンからの入力映像が表示できなくなった場合は、[AUTO]キーを押して映像の自動調整を行うと、表示できる場合があります。
映像調整2→位相(R)	本機とRGB入力信号の位相が不一致で映像にちらつきが出る場合、本項目を調節すると改善されることがあります。
映像調整2→オーバースキャン(CVD)	入力ビデオ信号に対するオーバースキャン率を、0%～5%*の間で調節します。プロジェクターの投映画面に表示される入力ソース映像の範囲は、設定値が小さいほど下図のように広くなります。
映像調整2→映像調整2の初期化(RCVD)	投映中の入力ソースに対する映像調整2メインメニュー内の全項目を初期化します。
音量調整→音量	「音量を調整する(VOLUME)」(24ページ)を参照してください。
音量調整→音量調整の初期化	投映中の入力ソースに対する音量設定を初期化します。
画面設定→縦台形補正	投映画面の縦方向の台形歪みを補正します。
画面設定→横台形補正	投映画面の横方向の台形歪みを補正します。
画面設定→補正の優先	台形補正によって発生することがある映像歪みを低減するか、そのままにするかを選びます。 形状:台形補正を行ったときの映像の歪みを低減します。この設定では、通常よりも投映範囲がやや狭くなります。 サイズ*:通常の投映範囲が維持されますが、台形補正を行ったときに映像の歪みが出ることがあります。
画面設定→アスペクト比(RCVHD)	投映画面のアスペクト比の設定を切り替えます。詳しくは「投映画面の縦横比(アスペクト比)を切り替える(ASPECT)」(24ページ)を参照してください。
画面設定→投映方法	スクリーンの前面から投映するか、背面から投映するかを設定します。 フロント*:スクリーンの正面から投映する場合に選択します。 リア:スクリーンの背面から投映する場合に選択します。「フロント」選択時に対して、映像の左右を反転して投映が行われます。
画面設定→天吊投映	本機を天地逆さまに壁掛け設置して投映するための設定項目です。 オン:天地逆さまに壁掛け設置して投映する場合はこちらを選択します。本機の底面側が上になるように、上下左右反転して投映が行われます。 オフ*:机上に設置して投映する場合はこちらを選択します。本機の上面側が上になるように、投映が行われます。
画面設定→無信号時画面	本機への入力信号がないときの投映画面表示を、「ブルー*」(青画面)、「ブラック」(黒画面)、「ロゴ」(本機に組み込まれたロゴ画像またはユーザーロゴ画像(47ページ))、「テストパターン」から選びます。なお本項目で「テストパターン」を選択し、無信号時にテストパターンが投映されている間は、オートパワーオフは動作しません。
画面設定→ブランク時画面	[BLANK]キーを押したときの投映画面表示を、「ブルー」(青画面)、「ブラック*」(黒画面)、「ロゴ」(本機に組み込まれたロゴ画像またはユーザーロゴ画像(47ページ))、「テストパターン」から選びます。
画面設定→デジタルスクリーンシフト	「デジタルスクリーンシフト」(26ページ)を参照してください。

メニュー項目名	できること
画面設定→画面設定の初期化	投映中の入力ソースに対する画面設定メインメニュー内の全項目を初期化します。
入力設定→ COMPUTER1端子／ COMPUTER2端子(RC)	COMPUTER IN 1端子／COMPUTER IN 2端子への入力信号の判別方法を選びます。 自動*: COMPUTER IN 1端子／COMPUTER IN 2端子への入力信号を本機が自動判別します。 RGB: COMPUTER IN 1端子／COMPUTER IN 2端子への入力信号をRGB信号とみなします。 コンポーネント: COMPUTER IN 1端子／COMPUTER IN 2端子への入力信号をコンポーネントビデオ信号とみなします。
入力設定→ RGB1レベル調整／ RGB2レベル調整(R)	「RGB1 レベル調整」はCOMPUTER IN 1 端子から入力されたRGB 信号、「RGB2 レベル調整」はCOMPUTER IN 2 端子から入力されたRGB 信号に、それぞれ対応します。入力されたRGB信号に対してレベル調整を実施する(オン*)か、しない(オフ)かを指定します。通常は「オン」にしておくことで映像が最適化されますが、入力信号によってはまれに映像が乱れたり最適化されない場合があります。この場合は、設定を「オフ」に切り替えてください。
入力設定→ビデオ信号(V) 入力設定→S-ビデオ信号(V)	VIDEO端子への入力信号の判別方法を選びます。 自動*: ビデオ入力信号を本機が自動判別します。 NTSC / NTSC4.43 / PAL / PAL-M / PAL-N / PAL60 /SECAM: ビデオ入力信号を、選択したビデオ方式の信号とみなします。
入力設定→信号名表示	[INPUT]キーを使って入力ソースを切り替えたときに、投映画面に入力信号を表示する(オン*)か、表示しない(オフ)かを指定できます。
入力設定→入力設定の初期化	投映中の入力ソースに対する入力設定メインメニュー内の全項目を初期化します。
機器設定1→自動調整(R)	RGB入力信号の種類(解像度/周波数)を判別して自動的に投映映像を調整する(オン*)か、しない(オフ)かを選択します。  **メモ** ● 「映像調整2」メニューに含まれる「垂直位置」、「水平位置」、「周波数」、「位相」を使って変更した設定値を、次回本機の電源を入れたときにも維持したい場合は、本項目を「オフ」にしてください。
機器設定1→ライトコントロール→ライト出力	「ライトコントロール」(26ページ)を参照してください。
機器設定1→ライトコントロール→明るさセンサー	明るさセンサーの有効、無効を切り替えます。 オン: 周囲の明るさに応じて自動的にライト出力が調節されます。 オフ*: ライト出力の自動調節は行われません。
機器設定1→ライトコントロール→ライトコントロール	ライト出力(光源ライトの輝度)調節の有効、無効を切り替えます。 オン*: ライト出力の調節ができます。 オフ: ライト出力の調節と、下記の「明るさセンサー」が無効となります。光源ライトを最大輝度で使用したい場合は、この設定にすることが必要です。
機器設定1→オートパワーオフ	プロジェクターに対するキー操作も入力信号もない状態が続いたときに、自動的に電源が切れる(オートパワーオフが働く)までの時間を指定します。自動的には電源が切れないように設定することもできます。 5分/10分*/15分/20分/30分: オートパワーオフが働くまでの時間を指定します。 オフ:オートパワーオフが働かないように設定します。
機器設定1→パスワード	「パスワード機能の利用」(35ページ)を参照してください。
機器設定1→ダイレクトパワーオン	この設定を「オン」にすると、本機の電源コードをコンセントにつなぐだけで、本機の電源が自動的に入ります(初期設定:オフ)。
機器設定1→プロジェクターID	「リモコンIDとプロジェクターIDの設定」(28ページ)を参照してください。

メニュー項目名	できること
機器設定1→言語	表示言語を下記から選べます。 英語／フランス語／ドイツ語／イタリア語／スペイン語／スウェーデン語／ポルトガル語／オランダ語／ノルウェー語／ポーランド語／フィンランド語／チェコ語／トルコ語／ロシア語／リトアニア語／ベトナム語／タイ語／マレー語／インドネシア語／アラビア語／中国語(簡体字)／中国語(繁体字)／韓国語／日本語 **重要** ● ネットワークモデルをご使用の方へ ネットワークモデルに特有の機能の使用中は、ここで選択した言語に関わらず、一部のメニューやメッセージが英語で表示される場合があります。
機器設定1→機器設定1の初期化	投映中の入力ソースに対する機器設定1メインメニュー内の全項目を初期化します。
機器設定2→プラグアンドプレイ N	プロジェクターが対応している外部USB機器をプロジェクターのUSB-A端子に接続したときや、プロジェクターのUSB-A端子に外部USB機器を接続したまま本機の電源を入れたときの、本機の動作を設定します。 オン:自動的に入力ソースが切り替わります。 オフ*:入力ソースは自動的には切り替わりません。
機器設定2→音声出力	音声をスピーカーから出力するには「スピーカー*」、AUDIO OUT端子から出力するには「ライン」を選びます。
機器設定2→音声入力	「音声入力の変更」(27ページ)を参照してください。
機器設定2→高地モード	平地／高地での使用に合わせてファンの回転数を切り替えます。 オン:空気が薄い高地(海抜1,500m～3,000m)でご使用になるときはこちらを選択してください。ファンの冷却効率が高まります。 オフ*:平地(1,500m未満)での使用時は、こちらを選択します。 **重要** ● 海抜3,000mを超える場所では本機をご使用にならないでください。
機器設定2→操作パネルロック	プロジェクター本体のキー操作を無効化します。 詳しくは「操作パネルロック」(28ページ)を参照してください。
機器設定2→ スタンバイRGB/音声	本機がスタンバイ状態(プロジェクターが通電中で、電源オフの状態)のときに、本機への入力映像をMONITOR OUT端子、入力音声をAUDIO OUT端子から、それぞれ出力するように設定できます。出力される映像は、本機のCOMPUTER IN 1端子からの映像信号に固定されています。また、出力される音声は、入力ソースの「Computer 1」に割り当てられている音声入力端子からの音声信号と、MIC端子からの音声信号です。 出力する:スタンバイ状態のときに映像および音声信号の出力を行います。 出力しない*:スタンバイ状態のときに映像および音声信号の出力を行いません。 **メモ** ● 本設定が「出力する」のときは、「機器設定2→音声出力」の設定に関係なく、スタンバイ状態では音声信号がAUDIO OUT端子に出力されます。 ● 本機のCOMPUTER IN 2端子に入力された映像信号を、MONITOR OUT端子から出力することはできません。
機器設定2→クローズドキャプション(V)	クローズドキャプションを含んでいるビデオ信号の投映時に、クローズドキャプションを表示するか、しないかを切り替えます。 オフ*:クローズドキャプションを表示しません。 CC1 / CC2 / CC3 / CC4:クローズドキャプションをCC1 / CC2 / CC3 / CC4の各出力設定で表示します。
機器設定2→タイマーファンクション	本項目を選択すると、タイマーファンクションメニューが表示されます。詳しくは「プレゼンテーションタイマーを使う(TIMER)」(29ページ)を参照してください。
機器設定2→マイク入力レベル	MIC端子からの入力音声の音量を0*(ミュート)～3(最大音量)の間で調節します。

メニュー項目名	できること
機器設定2→機器設定2の初期化	投映中の入力ソースに対する機器設定2メインメニュー内の全項目を初期化します。
マルチメディア設定→オートラン N	オートラン機能を使う(有効*)か、使わない(無効)かを設定します。詳しくは「オートラン機能」(39ページ)を参照してください。
マルチメディア設定→ファンクション N (F)	本項目を実行すると、リモコンの[FUNC]を押したときと同様のメニュー(ファンクションメニュー)が表示されます。
ネットワーク設定→有線LAN情報 N	有線LAN接続関連の現在の状態(IPアドレス、DHCP設定など)を表示します。
ネットワーク設定→無線LAN情報 N	無線LAN接続関連の現在の状態(IPアドレス、DHCP設定、セキュリティ設定、外部アクセスポイントへの接続状態など)を表示します。
ネットワーク設定→本機の有線LAN設定 N	IPアドレス設定を行います。
ネットワーク設定→本機の無線LAN設定 N	本機が無線LANアクセスポイントとして動作する際のSSIDの選択と、IPアドレス設定を行います。
ネットワーク設定→リモートOn N	本機がスタンバイ状態(本機が通電中で電源オフの状態)のときに、有線LAN経由で本機の電源をオンにできるか、できないかを指定します。 有効: 電源をオンにできます。 無効*: 電源をオンにできません。 「リモートOn」が有効な状態と無効な状態では、本機の待機消費電力が異なります。それぞれの状態での待機消費電力については、「仕様」(54ページ)を参照してください。
ネットワーク設定→PJLink認証 N	PJLinkの接続認証の有効、無効を切り替えます(初期設定は有効)。
ネットワーク設定→ネットワーク設定の更新 N	「本機の無線LAN設定」を変更した後で、その変更内容を本機に反映させます。
ネットワーク設定→ネットワーク設定の初期化 N	ネットワーク設定を工場出荷時の状態に戻します。
情報	本機に関する次の情報を表示します。 入力信号、信号名、解像度、水平周波数、垂直周波数、走査方式、音声入力、プロジェクターID、ライト使用時間、Version(本機のROMバージョン)
全初期化→ユニット使用時間	現在の本機の使用累積時間が表示されます。この時間は初期化することはできません。
全初期化→全初期化	次の項目を除いた設定メニュー内の全項目の設定が初期化されます。 機器設定1→言語、機器設定1→パスワード、情報→ライト使用時間、 情報→Version、全初期化→ユニット使用時間 **メモ** ● 本機に転送したユーザーロゴ画像(47ページ)は、全初期化を行っても消去されません。

パスワード機能の利用

本機の電源を入れた直後にパスワード入力を促し、本機の不正使用を防ぎます。パスワード機能のご利用にあたっては、次のことにご注意ください。

- パスワード機能はプロジェクターの盗難を防止する機能ではありません。あらかじめご了承ください。
- パスワード機能を使うとき、初回は工場出荷時のパスワードを入力します。工場出荷時のパスワードは、なるべく早くご自分のパスワードに変更してください。
- パスワード入力にはリモコンが必要です。リモコンを紛失しないようにご注意ください。また、リモコンの電池が消耗したら、早めに電池交換してください。
- パスワードを入力するには、リモコンIDとプロジェクターIDを一致させておくか、どちらかのIDが「オール」に設定されていることが必要です(28ページ「リモコンIDとプロジェクターIDの設定」を参照)。
- 設定したパスワードを忘れてしまうと、本機を使うことができなくなってしまいます。パスワードを忘れてしまった場合に備えて、メモなどにパスワードを控え大切に保管してください。

これをするには:	この操作を行う:
パスワードを変更する	1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 「機器設定1」→「パスワード」の順に選び、[ENTER]キーを押す。 3. 現在設定されているパスワードを入力し、[ENTER]キーを押す。 ● 本機のパスワードはリモコンキーの組み合わせです。工場出荷時のパスワードを変更していない場合は、次のキーの入力を行います。 [▲] [▼] [◀] [▶] [▲] [▼] [◀] [▶] 4. [▼]キーを押して「パスワード変更」を選び、[ENTER]キーを押す。 5. 新しいパスワードを8桁(8キー操作)以内で入力し、[ENTER]キーを押す。 ● パスワード設定用には、次のキーを使うことができます。 [INPUT]、[MENU]、[BLANK]、[FREEZE]、[ ]、[VOLUME +]、[VOLUME −]、[D-ZOOM +]、[D-ZOOM −]、[KEYSTONE +]、[KEYSTONE −]、[▲]、[▼]、[◀]、[▶]、[TIMER]、[AUTO]、[ASPECT]、[FUNC] 6. 手順5で入力したパスワードを再度入力し、[ENTER]キーを押す。 ● 「新しいパスワードが登録されました」というメッセージが表示されたら、パスワードの変更は完了しました。[ESC]キーを押してください。 ● もしここで再入力したパスワードが、手順5で入力したパスワードと一致しない場合は、「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。[ESC]キーを押して、手順5からやり直してください。
パスワード保護設定を切り替える	1. 上記「パスワードを変更する」の手順1〜3の操作を行い、パスワード機能の設定画面を表示する。 2. 「パワーオンパスワード」が選択されているのを確認し、[◀]または[▶]キーを押して「オン」または「オフ」のいずれかを選ぶ。 ● 設定を「オフ」から「オン」に切り替えると、「電源をオンするときに、パスワードを確認するようにしますか？」という確認ダイアログが表示されます。設定を「オン」に切り替えて、電源を入れた直後のパスワード確認を行うようにする場合は[ENTER]キーを、設定を「オン」に切り替えるのをやめる場合は[ESC]キーを押してください。 3. 設定メニューの操作を終了するには、[MENU]キーを押す。

ご自分のパスワードを忘れてしまった場合には

プロジェクター本体、身分証明書(社員証や運転免許証など、コピー可)の2点を「修理に関するお問合せ先」にご持参の上、パスワードの解除をご依頼ください(所定の解除手数料を申し受けます)。なおご依頼によりパスワードを解除した場合、ライト使用時間を除き、各種の設定がすべて工場出荷時の状態に戻ります。

USBメモリーデバイスからの投映(ネットワークモデルのみ)

USB メモリーデバイス上のファイルを投映するには、本機のファイルビューアーを使います。

再生可能ファイル一覧

ファイルの種類	再生できるファイルの条件
画像ファイル*1	JPEG: 約15メガピクセルまで(ベースライン形式の場合) 約8メガピクセルまで(プログレッシブ形式の場合) PNG: 6MB未満かつ約8メガピクセルまで*2 GIF: 6MB未満かつ約8メガピクセルまで*2 BMP: 6MB未満かつ約8メガピクセルまで(24ビットカラー時)
動画ファイル*3	AVI: 最大20Mbps 720/30P(MJPEG映像、ADPCM音声) MOV: 最大20Mbps 1080/30P(H.264映像、ADPCM音声またはAAC音声) MP4: 最大20Mbps 1080/30P(H.264映像、AAC音声)

*1 WXGAモデルのプロジェクターをご使用の場合でも、ベースライン形式のJPEGを除く画像データの投映解像度は最大1024×768となります(ベースライン形式のJPEG画像データは、1280×800の解像度で投映可能です)。

*2 透過色が設定されたPNGまたはGIF形式の画像ファイルの透過色部分は、すべて黒で表示されます。また、アニメーションGIFはアニメーション動作なしの静止画として表示されます。

*3 ビットレートの大きな動画ファイルの早送りや早戻しを行うと、指定したとおりの速度が出なかったり、処理が中断されることがあります。また、上記の最大ビットレートの動画は、通常の再生は可能ですが、早送りや早戻しはできません。

接続可能なUSBメモリーデバイスについて

FAT/FAT32フォーマットの下記メモリーデバイスを接続することができます。

- USBメモリー
- 各種メモリーカード(本機に接続するには市販のUSBカードリーダーが必要)
- USBマスストレージクラス(USB Mass Storage Class)に対応したデジタルカメラ

exFAT/NTFSフォーマットのメモリーデバイスは、使用できません。

本機にUSBメモリーデバイスを接続する

メモリーデバイスは、本機のUSB-A端子に接続します。

このメモリーデバイスは:	このように接続する:
USBメモリー	USBメモリーのType Aコネクタを、本機のUSB-A端子に接続する。
メモリーカード	1. メモリーカードをUSBカードリーダーのカードスロットに挿入する。 2. USBカードリーダーと接続されたUSBケーブルを、本機のUSB-A端子に接続する。
デジタルカメラ	デジタルカメラにUSBケーブルを接続し、USBケーブルのもう片方のコネクタ(Type Aコネクタ)を本機のUSB-A端子に接続する。 ● 接続手順や設定については、デジタルカメラの説明書も必ず参照してください。

USBメモリーデバイス上のファイルを投映する

これをするには:	この操作を行う:
USBメモリーデバイス上のファイルを投映する	1. 本機にUSBメモリーデバイスを接続する(36ページ「接続可能なUSBメモリーデバイスについて」を参照)。 2. [INPUT]キーを何度か押して「ファイルビューアー」を選び、[ENTER]キーを押す。 ● ファイルビューアーが起動し、ファイルビューアーのメイン画面が表示されます。 3. [▲]または[▼]キーを使って「スライド」(画像ファイル)または「動画」(動画ファイル)を選び、[ENTER]キーを押す。 ● 選択に応じて、画像ファイルまたは動画ファイルの一覧が表示されます。 4. [▲]または[▼]キーを使って投映したいファイルを選び、[ENTER]または[▶❚❚]キーを押す。 ● 画像ファイルの場合は、[ENTER]キーを押すと1ファイルのみの投映、[▶❚❚]キーを押すと選択したファイルを先頭としたスライドショー投映が実行されます。 ● 投映中に可能な操作については、下記「画像ファイル投映中の操作」、「動画ファイル投映中の操作」をそれぞれ参照してください。
ファイルビューアーの設定を行う	1. ファイルビューアーのメイン画面で「ビューアー設定」を選び、[ENTER]キーを押す。 2. [▲]または[▼]キーを使って設定を変更したい項目を選び、[ENTER]キーを押す。 3. [◀]または[▶]キーを使って選択肢を切り替える。 ● 設定項目ごとの選択肢については、「ファイルビューアー設定項目一覧」(38ページ)を参照してください。 4. 手順2、3の操作を必要なだけ繰り返す。

画像ファイル投映中の操作

これをするには:	この操作を行う:
1つ前の画像ファイルを投映する	[◀]または[❙◀]キーを押す。
次の画像ファイルを投映する	[▶]または[▶❙]キーを押す。
画像を左方向に90度回転する*1	[◀◀]キーを押す。
画像を右方向に90度回転する*1	[▶▶]キーを押す。
スライドショーを開始する	[▶❚❚]キーを押す。
実行中のスライドショーを停止する	[▶❚❚]キーを押す。

*1 JPEGファイルに対してのみ可能な操作です。

動画ファイル投映中の操作

これをするには:	この操作を行う:
再生を一時停止する/一時停止中の再生を再開する	[ENTER]または[▶▮▮]キーを押す。
ファイルの先頭から再生を再開する	[FUNC]キーを押すと表示されるメニューで「先頭から再生」を選び、[ENTER]キーを押す。
動画再生時間の表示/非表示を切り替える	[FUNC]キーを押すと表示されるメニューで「時間表示のオン・オフ」を選び、[ENTER]キーを押す。
2倍速、8倍速、32倍速で早送りする	[▶]または[▶▶]キーを押す。 ● 1回押すと2倍速、2回押すと8倍速、3回押すと32倍速の早送りになります。
2倍速、8倍速、32倍速で早戻しする	[◀]または[◀◀]キーを押す。 ● 1回押すと2倍速、2回押すと8倍速、3回押すと32倍速の早戻しになります。
早送りまたは早戻し再生から、通常の再生に戻る	[ENTER]または[▶▮▮]キーを押す。
動画の最終フレームに移動する	[FUNC]キーを押すと表示されるメニューで「終了部分に移動」を選び、[ENTER]キーを押す。
再生を中止してファイル一覧に戻る	[ESC]キーを押す。

ファイルビューアー設定項目一覧

表中の「設定内容」欄でアスタリスク(*)が付いている選択肢は、初期設定を表します。

項目名	設定内容
表示順の指定	ファイル一覧に表示するファイルの表示順を指定します。 **ファイル名(昇順)*/ファイル名(降順)/ファイル拡張子(昇順)/時刻順(新)/時刻順(古)**
起動時のモード	ファイルビューアーのメイン画面から各モードに入ったときに最初に表示されるファイル一覧を「**リスト表示***」にするか、「**アイコン表示**」にするかを指定します。
サムネイル表示	**表示する*:** ファイル一覧にファイルのサムネイル画像を表示します。 **表示しない:** ファイルのサムネイル画像を表示しません。
スライドショーの表示切替	**手動*:** スライドショー実行時のページ送りを手動で行います。 **自動:** スライドショー実行時のページ送りを自動で行います。

項目名	設定内容
スライドショーの表示間隔	スライドショー実行時のページ送りを自動で行う場合の表示間隔を、次の中から選択します。 **5秒*/10秒/30秒/1分/5分**
リピートの指定	**リピートする:** スライドショーおよび動画を繰り返し再生します。 **リピートしない*:** スライドショーおよび動画の再生を末尾で自動終了します。
動画の音声出力	**出力する*:** 音声トラック付きの動画再生時に、音声を出力します。 **出力しない:** 動画再生時に音声を出力しません。
ビューアー設定の初期化	ファイルビューアーのすべての設定を、初期設定に戻します。

ファイル一覧表示中の各種操作

これをするには:	この操作を行う:
ファイル一覧をリスト表示とアイコン表示の間で切り替える	[FUNC]キーを押すと表示されるメニューで「表示形式の切替」を選び、[ENTER]キーを押す。
ファイル一覧をスクロールする	次画面にスクロールするには[▶▮]キーを、前画面にスクロールするには[▮◀]キーを押す。
フォルダーを開く	カーソルキーを使って開きたいフォルダーを選び、[ENTER]キーを押す。
現在開いているフォルダーを出て1つ上の階層に戻る	[ESC]キーを押す。
ファイル一覧からメイン画面に戻る	[FUNC]キーを押すと表示されるメニューで「トップメニューに戻る」を選び、[ENTER]キーを押す。

オートラン機能

オートラン機能は、本機のUSB-A端子にUSBメモリーを接続したとき、または本機のUSB-A端子にUSBメモリーを接続したまま本機の電源を入れたときに、USBメモリー上の画像ファイルまたは動画ファイルを自動的に再生する機能です。設定メニューが下記になっていることが前提となります。

- 「マルチメディア設定→オートラン」(34ページ):有効
- 「機器設定2→プラグアンドプレイ」(33ページ):オン

これをするには:	この操作を行う:
オートラン機能で使うUSBメモリーを準備する	1. USBメモリーのルートディレクトリに「AUTORUNC」(すべて半角大文字)という名前のフォルダーを作成する。 2. 手順1で作成したフォルダーに、自動的に投映したい画像ファイルまたは動画ファイルをコピーする。 ● 動画ファイルを自動投映したい場合は、「AUTORUNC」フォルダー内には動画ファイル1つだけを置き、他にはファイルを置かないでください。動画ファイルと画像ファイルの両方を置くと、画像ファイルの投映が優先され、動画ファイルは投映されません。 ● 画像ファイルは、「AUTORUNC」フォルダー内に複数置いて構いません。この場合、下記の「USBメモリー上のファイルを自動投映する」の操作を行ったときには、複数の画像ファイルによるスライドショーが実行されます。
USBメモリー上のファイルを自動投映する	本機の電源が入っているときに、上記で準備したUSBメモリーを本機のUSB-A端子に接続する。または、本機の電源を切った状態でUSBメモリーを本機のUSB-A端子に接続してから、本機の電源を入れる。

ファイルビューアーのトラブルシューティング

現象	原因と対処
USBメモリーをプロジェクターのUSB-A端子に接続したが、ファイルビューアーが表示されない。	● 本機が認識できないフォーマットのUSBメモリーを接続したことが考えられます。USBメモリーをパソコンに接続し、ファイルシステムがFATまたはFAT32かどうかを確認してください。 ● 「機器設定2→プラグアンドプレイ」(33ページ)が「オフ」になっている場合は、USB-A端子にUSBメモリーを接続してもファイルビューアーは自動的に起動しません。「プラグアンドプレイ」を「オン」に切り替えてください。
ファイル一覧にフォルダーやファイルが表示されない。	1つのフォルダー内に1000個以上のフォルダーやファイルがあると、すべては表示されません。フォルダーやファイルの数を減らしてください。
デジタルカメラとプロジェクターをUSB接続したが、ビューアーでデジタルカメラのメモリー内容を表示できない。	● デジタルカメラ側で、USBマスストレージクラスの設定や、USB接続のための操作が必要な場合が考えられます。デジタルカメラの取扱説明書をご覧になり、これらの設定や操作を実行してください。 ● デジタルカメラがUSBマスストレージクラスに対応していないことが考えられます。この場合は、ビューアーを使ってデジタルカメラのメモリー内容を表示することはできません。
スライドモードのファイル一覧で、画像ファイルのサムネイル表示に「?」と表示される。	ファイルビューアーで投映することができない画像ファイルのサムネイルは、「?」と表示されます。

ファイルビューアーのエラーメッセージ一覧

メッセージ	原因と対処
表示するファイルがありません。	ファイルビューアーで内容を表示しようとしたフォルダーの中に、表示可能なフォルダーやファイルが1つもない場合に表示されます。パソコンを使って、フォルダーの中身をご確認ください。本機で再生可能な各種ファイルの形式については、「再生可能ファイル一覧」(36ページ)を参照してください。
表示できない画像ファイルです。 表示できない動画ファイルです。	● ファイルビューアーで表示できないフォーマットやサイズの画像または動画を再生しようとしたことが考えられます。「再生可能ファイル一覧」(36ページ)をご確認ください。 ● 画像ファイルまたは動画ファイル自体のエラーが考えられます。本機で表示できなかったファイルをパソコンで開いて確認してください。
表示できないファイルです。	ファイルビューアーで表示可能なファイルについては、「再生可能ファイル一覧」(36ページ)を参照してください。
ファイルが見つかりませんでした。	USBメモリー上にファイルが何もないか、ファイルシステムの異常が考えられます。パソコンを使ってUSBメモリーの内容を確認してください。

関数電卓画面の投映

本機と関数電卓をUSB接続することで、関数電卓の画面をそのまま本機から投映することができます。
次の機種の関数電卓が、本機とのUSB接続に対応しています。

- fx-9860G, fx-9860GII
- fx-CG20

関数電卓の画面を投映するには

1. 本機の電源が入った状態で、本機のUSB-A端子と関数電卓のUSB端子を接続する。

- 接続には、Type Aコネクタ（本機側）⇔Type B miniコネクタ（電卓側）のUSBケーブルをご使用ください。

2. [INPUT]キーを押して「入力」ダイアログを表示する。

3. [▼]または[▲]キーを使って「CASIO USBツール」を選び、[ENTER]キーを押す。

4. 関数電卓で、プロジェクターへの投映操作を行う。

- 詳しくは、関数電卓に付属の取扱説明書をご覧ください。

重要

- 本機と関数電卓を接続したときに関数電卓が正常に動作しない場合は、いったん関数電卓からUSBケーブルを引き抜き、差し込み直してください。それでも関数電卓が正常に動作しない場合は、本機と関数電卓からUSBケーブルを取り外し、本機の電源をいったん切ってから入れ直し、再度USBケーブルを接続してください。

クリーニングについて

本機は下記の要領で定期的にクリーニングしてご使用ください。クリーニング前には必ず電源プラグをコンセントから抜き、本機を十分に放熱してください。

本機外部のクリーニング

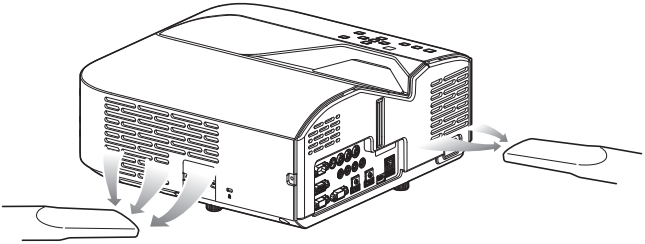
本機外部をクリーニングする際は、柔らかな布を薄い中性洗剤に浸し、固くしぼって拭いてください。ベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は絶対にご使用にならないでください。

レンズのクリーニング

市販のメガネ拭き用のクロスやクリーニングペーパーなどを使って拭いてください。なおクリーニング時は、レンズに必要以上の力を加えたり、レンズを傷つけたりしないようご注意ください。

吸気口などのクリーニング

吸気口にはゴミやほこりがたまりやすいので、下図のように電気掃除機を使い、時々ていねいに吸い取ってください(月に 1 回程度)。



重要

- 吸気口にほこりがたまったままで本機をご使用になると、本機内部の温度が過度に上昇し、故障の原因となります。
- ご使用の環境によっては、排気口にもほこりやゴミがたまることがあります。このような場合は、吸気口と同様にクリーニングしてください。

故障かな？と思ったら

インジケーター表示について

本機の状態を、上面の各インジケーターの色や点灯／点滅状態によって判別することができます。正常時のインジケーター表示は下表のとおりです。

インジケーター表示			本機の状態
POWER/STANDBY	LIGHT	TEMP	
● 赤	● オレンジ	● オレンジ	本機の電源コードをコンセントに接続した直後です。スタンバイ状態（下記参照）になるまでは、本機の電源を入れることはできません。
● 赤	○	○	本機の電源コードがコンセントに接続されており、スタンバイ（待機）状態です。
◎ 緑	● オレンジ	● オレンジ	本機の電源を入れた直後のウォームアップ中です。
● 緑	○	○	本機の電源が入り、使用可能な状態です。 本機の「ライトコントロール」（26ページ）が「オフ」に設定されています。
● 緑	● 緑	○	本機の電源が入り、使用可能な状態です。 本機の「ライトコントロール」が「オン」に設定されています。
◎ 赤	○	○	本機の電源を切った直後の内部処理中です。

● . . . . 点灯　◎ . . . . 点滅　○ . . . . 消灯

エラー発生時の各種表示について

本機にエラーが発生すると、本機は警告メッセージやインジケーターによってエラーの内容を表示します。

- エラーが発生して、電源コードを取り外す際には、ファンが停止してから行ってください。ファンが回転中に電源コードを取り外し、再度電源コードを接続した場合エラーから復帰できないことがあります。
- 警告メッセージは[ESC]キーを押すと消えます。

インジケーター表示／警告メッセージ	本機の状態と対処
POWER　：緑点灯 LIGHT　：－ TEMP　：－ メッセージ　：内部が高温になっています。 設置状況を確認してください。	内部が極端に高温になっています。次の操作を行ってください。 1. 本機の吸気口／排気口がふさがれていないか、本機の周囲のスペースが十分に確保されているか確認する（19ページ「設置場所に関するご注意」を参照）。 2. 本機の吸気口／排気口にほこりがたまっていたら電源を切って掃除する（42ページ「クリーニングについて」を参照）。

インジケーター表示／ 警告メッセージ	本機の状態と対処
POWER　：緑点灯→赤点灯 LIGHT　：－ TEMP　：－ メッセージ：内部が高温になっています。 電源をオフにします。	内部が極端に高温になったため、電源が自動的に切れました。次の操作を行ってください。 1. 本機の吸気口／排気口がふさがれていないか、本機の周囲のスペースが十分に確保されているか確認する（19ページ「設置場所に関するご注意」を参照）。 2. 本機の吸気口／排気口にほこりがたまっていたら掃除する（42ページ「クリーニングについて」を参照）。 上記について問題が無い場合には、POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認後、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
POWER　：赤点灯 LIGHT　：赤点灯 TEMP　：赤点灯 メッセージ：－	ファンに異常が発生したため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わり、ファンが停止したのを確認してください。確認後、本機から電源コードを取り外し、インジケーターが消えてしばらくしてから電源コードを接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
POWER　：赤点灯 LIGHT　：－ TEMP　：赤点灯 メッセージ：－	システムに異常が発生したため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認後、本機から電源コードを取り外し、インジケーターが消えてしばらくしてから電源コードを接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
POWER　：赤点灯 LIGHT　：－ TEMP　：赤点灯 メッセージ：－	外部からのノイズなどの要因による誤動作のために電源が自動的に切れたことが考えられます。POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認してください。確認後、本機から電源コードを取り外し、インジケーターが消えてしばらくしてから電源コードを接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
POWER　：赤点灯 LIGHT　：赤点滅（約0.5秒周期） TEMP　：赤点滅（約0.5秒周期） メッセージ：－	光源ユニットが消灯または点灯しなかったため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認して一度電源コードを取り外し、しばらくしてから接続し直して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
POWER　：赤点灯 LIGHT　：消灯または赤点滅 TEMP　：赤点滅（約2秒周期） メッセージ：－	本機内部のメモリエラーが発生したため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケーターが赤点灯に変わったのを確認してください。確認後、本機から電源コードを取り外し、インジケーターが消えてしばらくしてから電源コードを接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機のトラブルと対処について

本機の使用中に何らかのトラブルが発生した場合は、故障とお思いになる前に、以下をご確認ください。

現象	原因と対処
電源が入らない	● POWER/STANDBYインジケーターが点灯していない場合は、電源コードが正しく接続されていません。電源コードを正しく接続してください。 ● TEMPまたはLIGHTインジケーターが点滅(点灯)し続けたまま消灯しない場合は、何らかのエラーが発生しています(43ページ「エラー発生時の各種表示について」を参照)。
映像がまったく投映されない、または正常に投映されない	● 本機と接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っていなかったり、ビデオ信号が出ていないことが考えられます。接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っており、正常に動作していることをご確認ください。 ● 正しい入力ソースが選択されていないことが考えられます。本機に接続している機器に合わせて入力ソースを正しく選択してください。 ● ビデオ機器のコンポーネント出力端子と本機のCOMPUTER IN(1または2)端子を接続した場合、ビデオ機器によっては、映像が正しく投映されない場合があります。本機のVIDEO端子またはS-VIDEO端子をご使用ください。
色や表示が極端にずれる	設定メニューの「入力設定→COMPUTER IN 1端子(またはCOMPUTER IN 2端子)」の設定として、誤って「コンポーネント」または「RGB」が選択されていることが考えられます。本機のCOMPUTER IN(1または2)端子とパソコンのRGB出力端子を接続しているときに「コンポーネント」が選択されているか、本機のCOMPUTER IN(1または2)端子とビデオ機器のコンポーネントビデオ出力端子を接続しているときに「RGB」が選択されている場合は、映像が正しく表示されません。設定メニューの「入力設定→COMPUTER IN 1端子(またはCOMPUTER IN 2端子)」を「自動」に切り替えてください。
メッセージやメニューが日本語で表示されない(言語が変わってしまった)	次の操作で、言語を「日本語」に設定してください。 1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. 入力信号がHDMI(PC)の場合は[▼]を4回押してから、[ENTER]キーを押す。入力信号がHDMI(PC)以外の場合は[▼]を5回押してから、[ENTER]キーを押す。 3. [▲]を2回押してから[ENTER]キーを押して、言語選択メニューを表示する。 4. [▼]/[▲]を使って「日本語」を反転させ、[ENTER]キーを押す。 5. [MENU]キーを押して設定メニューを消す。
音が出ない	● 本機の音量設定が小さすぎるか、消音(ミュート)状態になっていることが考えられます。リモコンの[VOLUME +]または[VOLUME −]キーを使って、音量を調節してください。 ● 本機と接続した機器の音量が小さすぎるか、音が出ていないことが考えられます。接続した機器の音量を調節してください。 ● 投映中の入力ソースに割り当てられている音声入力端子に、機器の音声出力が正しく接続されていないことが考えられます。「入力ソースについて」(25ページ)および「音声入力の変更」(27ページ)を参照してください。 ● 設定メニューの「機器設定2→音声出力」が「ライン」に設定されていることが考えられます。「音声出力」の設定を「スピーカー」に切り替えてください。
色がおかしい	入力信号と本機の設定が合わないことが考えられます。次の操作をお試しください。 − [FUNC]を押すと表示されるメニューで「明るさ」を選び、明るさを調節する。 − [FUNC]を押すと表示されるメニューで「カラーモード」を選び、カラーモードを変更する。 − 設定メニューの「映像調整1→カラーバランス」を使って、映像のカラーバランスを調整する。
文字がぼやける	● 焦点が合っていないことが考えられます。焦点を合わせてください。 ● 周波数や位相の設定が入力信号と合わないことが考えられます(入力ソースがRGB信号の場合のみ)。[AUTO]キーを押して、自動調整を行ってください。 ● 設定メニューを使って「映像調整2→周波数」と「映像調整2→位相」を調整してください(入力ソースがRGB信号の場合のみ)。

現象	原因と対処
「パスワードを入力してください」というメッセージから先に進めない	設定メニューの「機器設定1→パワーオンパスワード」が「オン」に設定されています。正しいパスワードを入力し、[ENTER]キーを押してください(35ページ参照)。なお、リモコンのキーを押してもパスワードが入力できない場合は、下記の「リモコンで操作できない」をお読みください。
リモコンで操作できない	● リモコンの電池が消耗していることが考えられます。電池を交換してください。 ● リモコンの操作可能範囲外で操作していることが考えられます。プロジェクターから約5m以内の範囲で操作してください。 ● リモコンIDとプロジェクターIDが一致していないことが考えられます。双方のIDを一致させるか、どちらかのIDを「オール」に変更してください(28ページ「リモコンIDとプロジェクターIDの設定」を参照)。
TEMPまたはLIGHTインジケーターが点滅(点灯)している	何らかのエラーが発生しています(43ページ「エラー発生時の各種表示について」を参照)。
光源ユニットが点灯しなくなった	● [BLANK]キーを押したため、一時的に光源が消灯していることが考えられます。[BLANK]キー(または[ESC]キー)を押してください。 ● 光源ユニットの寿命または故障と考えられます。「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に交換をご依頼ください。
突然電源がオフになり、再起動した	プロジェクターがセルフチェックを行った結果として、まれに自動的に再起動することがあります。故障ではありませんので、そのままお使いください。 ただし、再起動が何度も連続して発生する場合は故障と考えられますので、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

重要

● 以下の操作により正常に戻る場合がありますのでお試しください。

1. 電源コードを取り外し、10分以上放置する。
2. 再度電源コードを接続し、電源を入れる。

● この操作を行っても、動作が正常に戻らないときは、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

補足情報

外部機器への給電について

本機のUSB-A/DC 5V端子(XJ-UT351WN)またはDC 5V端子(XJ-UT331X/XJ-UT351W)は、外部機器への給電端子として使用できます。

重要

- 本機から外部機器への給電中に本機の電源を切ると、給電は停止します。また、本機がセルフチェックのため再起動したり、オートパワーオフやエラーなどで電源が切れたりした場合も、給電は停止します。給電が停止すると、外部機器によっては編集中のデータが消失または破壊されることがあります。本機からの給電を受ける外部機器側で、こまめにデータの保存を行ってください。
- 外部機器への給電中にオートパワーオフ(32ページ)が働いて本機の電源が切れると、給電は停止します。外部機器への給電を開始する前に、必ず「機器設定1→オートパワーオフ」の設定を「オフ」にしてください。
- 動作確認済みの外部機器につきましては、弊社ウェブページ(http://casio.jp/support/projector/)をご覧ください。弊社ウェブページにて掲載している動作確認済み外部機器以外の機器については、動作を保証できません。
- 弊社ウェブページに掲載されている機器以外でも、DC 5V/2Aまでの機器であれば、本機からの給電によってご使用になれますが、機器によっては一部の機能がご使用になれない場合もございます。外部機器に給電する場合は接続する機器の取扱説明書をご確認いただき、正しく接続してください。特に本機の給電端子に充電池を接続する場合、接続方法を誤ると破裂や発煙、発火の危険性があります。
- 万一、本機の給電端子に接続した外部機器上でのデータの消失や破損、あるいは外部機器の破壊、発煙、発火が発生したとしましても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

メモ

- 本機からの給電を維持したまま投映を一時的に中断したいときは、[BLANK]キーを押してください(23ページ「入力ソースからの映像と音声を一時的に遮断する(BLANK)」を参照)。

ファームウェア更新、ユーザーロゴ転送について

パソコンからの操作で、本機のファームウェア(フラッシュROMに搭載されたソフトウェア)の更新が可能です。また、パソコンから本機にユーザーロゴ用の画像を転送することができます。

これをするには:	この操作を行う:
本機のファームウェアを更新する	1. 本機のLOGO端子とパソコンのUSB端子を、市販のUSBケーブルで接続する。 2. 弊社ウェブサイトで公開されている「プロジェクターファームウェア更新ガイド」を参照して、必要な操作を行う。
本機にユーザーロゴ用の画像を転送する	1. 本機のLOGO端子とパソコンのUSB端子を、市販のUSBケーブルで接続する。 2. 弊社ウェブサイトで公開されている「プロジェクターユーザーロゴ転送ガイド」を参照して、必要な操作を行う。

本機を壁に設置する

専用の壁掛け金具を使うことで、本機を壁に設置することが可能です。この設置方法では、本機の向きは、天地逆さまになります。
詳細は、販売店にお問い合わせください。

重要

- 本機を、火災検知器・報知器など消防設備のある壁へ取り付ける場合、本機を消防設備からできるだけ(最低1m)離してください。本機と消防設備が近いと、本機の排気により消防設備が誤動作する恐れがあります。また、蛍光灯や強い光源の近くに設置しないでください。リモコンで操作できなかったり、利用可能範囲がせまくなります。設置予定位置でのリモコン操作の可否は、必ず設置前にご確認ください。
- 本機を天地逆さまに設置した場合、映像が上下左右逆になりますので、設定メニューを使った設定の変更が必要になります。詳しくは、「画面設定→天吊投映」(31ページ)を参照してください。

MONITOR OUT端子の利用について

本機のMONITOR OUT端子は、COMPUTER IN 1端子またはCOMPUTER IN 2端子への入力信号をそのまま出力します。投映映像を別のディスプレイで同時に確認したいときなどに便利です。

メモ

- 本機の電源がオンのときに、MONITOR OUT端子から出力される信号は、入力ソースの選択状態に応じて次のようになります。

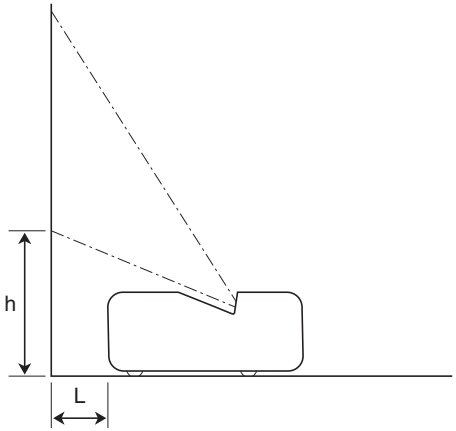
この入力ソースを選択すると:	この端子からの信号がMONITOROUT端子へ出力される:
Computer 1	COMPUTER IN 1
Computer 2	COMPUTER IN 2
ビデオ、Sビデオ、HDMI 1、HDMI 2、ファイルビューアー、CASIO USBツール、ネットワーク	Computer 1、Computer 2のうち、より後に選択されていた入力ソースに対応する端子(COMPUTER IN 1端子またはCOMPUTER IN 2端子)*1

*1 例えば入力ソースをComputer 1からSビデオに切り替えた場合、MONITOR OUT端子はCOMPUTER IN 1からの映像入力信号の出力を継続します。

- 本機がスタンバイ状態のときでも、COMPUTER IN 1端子に入力された映像信号を、MONITOR OUT端子から出力するように設定できます。詳しくは、「機器設定2→スタンバイRGB/音声」(33ページ)を参照してください。

投映距離と投映サイズについて

以下の投映距離の数値は、設置の際の目安です。



WXGAモデル

投映サイズ		投映距離(製品前面から投映面までの距離):L (cm)	製品底面から投映面下端までの高さ:h (cm)
型	対角線サイズ (cm)		
50	127	6	24
60	152	13	27
80	203	27	32
100	254	40	38
110	279	47	40

XGAモデル

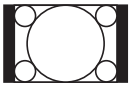
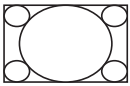
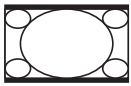
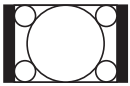
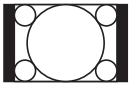
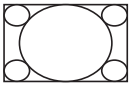
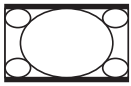
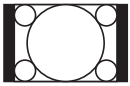
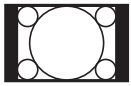
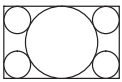
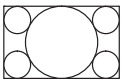
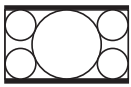
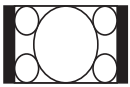
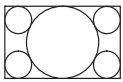
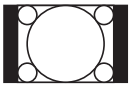
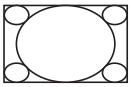
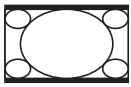
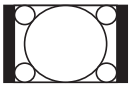
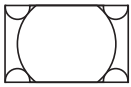
投映サイズ		投映距離(製品前面から投映面までの距離):L (cm)	製品底面から投映面下端までの高さ:h (cm)
型	対角線サイズ (cm)		
40	102	4	25
50	127	12	28
60	152	20	32
80	203	37	39
100	254	52	45

アスペクト比設定と投映画面について

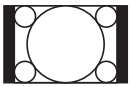
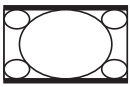
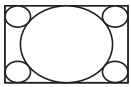
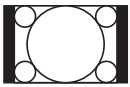
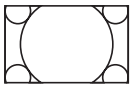
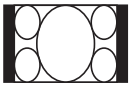
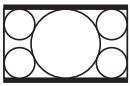
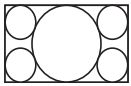
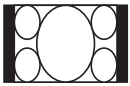
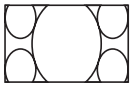
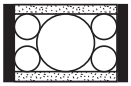
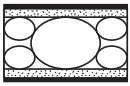
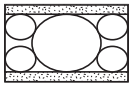
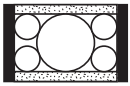
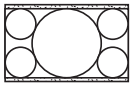
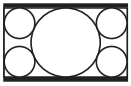
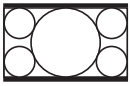
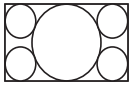
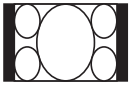
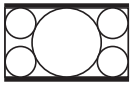
本機への入力信号と本機のアスペクト比設定に応じた投映画面は、次のようになります。

WXGAモデル（1280×800）

入力ソース：RGBまたはHDMI（PC）

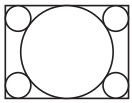
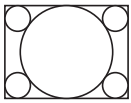
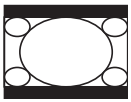
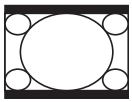
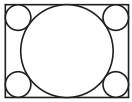
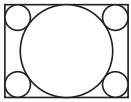
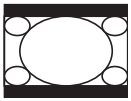
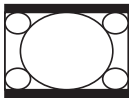
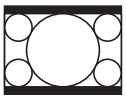
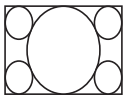
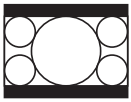
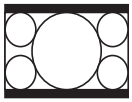
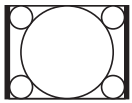
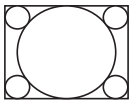
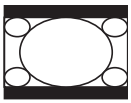
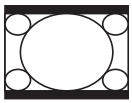
入力信号例	標準	フル	16:9	4:3	リアル
SVGA（800×600）					
XGA（1024×768）					
WXGA（1280×800）					
SXGA（1280×1024）					

入力ソース：ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント、またはHDMI（DTV）

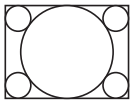
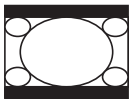
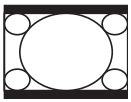
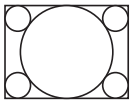
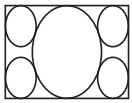
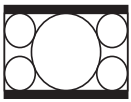
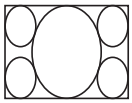
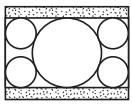
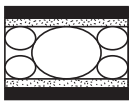
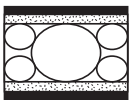
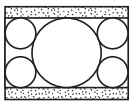
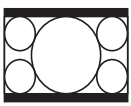
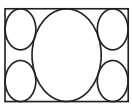
入力信号例	標準	16:9	16:10	4:3	レターボックス
4:3アスペクト映像					
スクイーズ映像					
Letter Box映像					
16:9アスペクト映像					

XGAモデル（1024×768）

入力ソース：RGBまたはHDMI（PC）

入力信号例	標準	フル	16:9	16:10
SVGA（800×600）				
XGA（1024×768）				
WXGA（1280×800）				
SXGA（1280×1024）				

入力ソース：ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント、またはHDMI（DTV）

入力信号例	標準	16:9	16:10	4:3
4:3アスペクト映像				
スクイーズ映像				
Letter Box映像				
16:9アスペクト映像				

プロジェクターのRS-232C制御について

コンピューターから本機をRS-232Cコマンドで制御するには、本機とコンピューターを市販のシリアルケーブル(クロス)で接続してください。

コマンドのフォーマット

通信プロトコル	通信スピード:19200bps、データビット:8bit、パリティ:なし、ストップビット:1bit、フロー制御:なし	
読み出しコマンド	送信フォーマット	(<コマンド名>?)
	受信フォーマット	(<当該コマンドの設定可能範囲>,<現在の設定値>)
	コマンド送受信例	コンピューターから[(VOL?)]をプロジェクターに送信 ↓ [(0-30,15)]がプロジェクターからコンピューターに返される
書き込みコマンド	送信フォーマット	(<コマンド名><設定値>)
	コマンド送信例	コンピューターから[(VOL0)]をプロジェクターに送信 ↓ プロジェクターの音量設定が0(ミュート)になる

- コマンドはすべてASCII文字および10進数(整数)で記述してください。
- プロジェクターが認識できないコマンドを送信すると、プロジェクターから“？”が返されます。また、プロジェクターが認識できない設定値を送ったときは無視されます。
- コマンドの送信は、先に送ったコマンドの処理をプロジェクターが完了するまで待つ必要があります。また、本体キーやリモコンキーを使ってプロジェクターを操作した場合も同様に、その操作による処理をプロジェクターが完了するのを待って、コマンドを送信することが必要です。

コマンド一覧

- 電源がオフのとき、プロジェクターは電源オン/オフ状態の読み出し(PWR?)、ライト使用時間の読み出し(LMP?)、および電源オンの書き込み(PWR1)の各コマンドのみを受け付けます。これら以外のコマンドを、電源オフ状態のプロジェクターに送信しないでください。
- ブランク表示をオンにする操作、およびアスペクト比を変更する操作をコマンドによって実行するには、有効な信号がプロジェクターに入力されている必要があります。
- お使いのプロジェクターが備えている機能に対応したコマンドおよび設定値だけが、利用可能です。
- 下表の「機能」欄の R は読み出し専用コマンド、W は書き込み専用コマンドです。

コマンド	機能	設定値の範囲
PWR	電源オン/オフ	0: オフ, 1: オン
SRC	入力ソースの切り替え	0: RGB1, 1: Component1, 2: Video, 3: RGB2, 4: Component2 6: Auto1(RGB/Component), 7: HDMI1, 8: ネットワーク, 9: S-Video 10: Auto2(RGB/Component), 11: ファイルビューアー 13: CASIO USBツール, 14: HDMI2
AIS	音声入力の切り替え	1: AUDIO IN 1, 2: AUDIO IN 2, 3: AUDIO IN R L, 4: HDMI1 AUDIO IN 5: HDMI2 AUDIO IN, 6: ビューアー AUDIO, 7: ネットワーク AUDIO
BLK	ブランク表示	0: オフ, 1: オン
VOL	音量*1	0(ミュート)～ 30(最大音量)
VLP VLM	W VLPは現在の音量の設定値を数値で指定した分だけ上げ、VLMは下げます。例えば5上げたい場合は“VLP5”、5下げたい場合は“VLM5”を本機に送信します。	
MUT	ミュート	0: オフ, 1: オン
PST	カラーモード	1:グラフィックス, 2:シアター, 3:スタンダード, 4:黒板, 5:ナチュラル

コマンド	機能	設定値の範囲
ARZ	アスペクト比	0:標準*2, 1:16:9, 2:標準*2, 3:レターボックス, 4:フル, 5:リアル, 6:4:3 7:16:10
LMP	R 累積ライト使用時間を取得(時間単位の整数値が返されます)	
PMD	ライトコントロール	0:ブライト*3, 1:ノーマル*3, 2:明るさセンサーオン, 3:ライト出力7 4:ライト出力6, 5:ライト出力5, 6:ライト出力4, 7:ライト出力3 8:ライト出力2, 9:ライト出力1
FRZ	フリーズ	0: オフ, 1: オン
KST	縦台形補正	0〜120*4
KSP KSM	W KSPは現在の縦台形補正の設定値を数値で指定した分だけ上げ、KSMは下げます。例えば5上げたい場合は"KSP5"、5下げたい場合は"KSM5"を本機に送信します。	
HKS	横台形補正	0〜120*4
HKP HKM	W HKPは現在の横台形補正の設定値を数値で指定した分だけ上げ、HKMは下げます。例えば5上げたい場合は"HKP5"、5下げたい場合は"HKM5"を本機に送信します。	
KEY	W キーを押す操作を実行*5	1: ▲, 2: ▼, 3: ◀, 4: ▶, 5: ENTER, 6: ESC, 10: FUNC, 11: MENU 12: POWER, 13: AUTO, 14: INPUT, 15: TIMER, 16: ASPECT, 17: BLANK 18: FREEZE, 19: , 20: KEYSTONE +, 21: KEYSTONE − 22: D-ZOOM +, 23: D-ZOOM −, 24: VOLUME +, 25: VOLUME − 26: PLAY(▶❚❚), 27: REWIND(◀◀), 28: FORWARD(▶▶) 29: PREVIOUS(❚◀), 30: NEXT(▶❚)
POS	設置設定*6	0:プロジェクターの天面を上向きに設置しスクリーン手前から投映 1:プロジェクターの天面を下向きに設置しスクリーン後ろから投映 2:プロジェクターの天面を上向きに設置しスクリーン後ろから投映 3:プロジェクターの天面を下向きに設置しスクリーン手前から投映
APO	オートパワーオフ	0:オフ, 1:5分, 2:10分, 3:15分, 4:20分, 5:30分
STS	R エラー状態の取得	0:通常状態, 1:ファンエラー, 2:温度エラー, 7:光源エラー, 16:その他のエラー
MIC	マイク入力レベル	0〜3
IDS	プロジェクターID	0: オール, 1: ID1, 2: ID2, 3: ID3, 4: ID4

*1 この設定は、現在プロジェクターで投映中の入力ソース信号に対して行われます。
*2 設定値0は入力ソースがRGBまたはHDM I(PC)の場合の「標準」、設定値2は入力ソースがコンポーネント、HDMI (DTV)、ビデオ、S-ビデオの場合の「標準」です。
*3 ライトコントロールオフモード時の設定です。
*4 プロジェクターの設定メニュー上では、設定値の範囲は−60から60までとなります。
*5 KEYコマンドの各設定値は、リモコンの各キーと1対1で対応しています。KEYコマンドの各設定値によるプロジェクターの動作と、対応するリモコンキーによるプロジェクターの動作は、まったく同じです。KEYコマンドを使って外部機器からプロジェクターを操作する際は、リモコンキーでプロジェクターを操作するのと同じと考えて、コマンド送信順序を決めるとよいでしょう。
*6 プロジェクターをスクリーンに対してどのように設置するかに応じた設定を行います。プロジェクター設定メニューの「投映方法」および「天吊投映」に相当します。

仕様

機種名		XJ-UT331X	XJ-UT351W	XJ-UT351WN
投映方式		1chip DLP®方式		
表示素子	素子サイズ	XGA0.55型 (アスペクト比4:3)	WXGA0.65型(アスペクト比16:10)	
	画素数	786,432画素 (1024×768)	1,024,000画素(1280×800)	
投映レンズ		固定ズーム/手動フォーカス		
		F 2.3 / f 4.2		
光源		レーザーおよびLED		
投映画面サイズ		40～100型	50～110型	
投映距離	60型	0.20m	0.13m	
	100型	0.52m	0.40m	
	最短投映距離	0.04m	0.06m	
色再現性		フルカラー(約10億7千万色)		
明るさ*1*2		3300lm	3500lm	
コントラスト比(全白/全黒)*1*2		20000:1		
走査周波数	水平	15kHz～91kHz		
	垂直	50Hz～85Hz		
表示解像度	RGB信号	リアル表示: 1024×768	リアル表示:1280×800	
		圧縮表示:最大1920×1200		
	コンポーネント信号	圧縮表示:最大1920×1080(HDTV 1080P)/D5相当		
	HDMI信号	圧縮表示:最大1920×1200		
	ビデオ信号	NTSC/PAL/PAL-N/PAL-M/PAL60/SECAM		
RGB入力		COMPUTER端子:ミニD-sub 15ピン×2		
RGB出力		MONITOR OUT端子:ミニD-sub 15ピン×1		
コンポーネント(YCbCr/YPbPr)入力		COMPUTER端子兼用		
デジタル入力		HDMI端子:HDMI type A×1(XJ-UT331X)/ HDMI type A×2(XJ-UT351W/XJ-UT351WN)、HDCP対応、音声信号対応		
ビデオ入力		コンポジット(RCA)×1、Sビデオ端子×1		
音声	入力	RCA×1(R/L)、ステレオミニジャック×2		
	出力	ステレオミニジャック×1		
マイク入力*3		モノラルミニジャック×1		
その他端子	USBホスト	USB type A×1(ネットワークモデルのみ)		
	USBデバイス	Micro-USB type B×1:ファームウェア更新およびロゴ登録用		
	制御端子	RS-232C(D-sub 9ピン)×1		
	給電端子	DC 5V/2A×1(XJ-UT351WNはUSBホスト端子と共通)		
	LAN端子	RJ-45×1(ネットワークモデルのみ)		
無線対応*4		IEEE 802.11b/g/n対応(ネットワークモデルのみ)		
スピーカー		16W×1、モノラル		
動作温度		5℃～35℃		
動作湿度		20～80%(ただし結露しないこと)		
動作高度		海抜0～3,000m		

機種名		XJ-UT331X	XJ-UT351W	XJ-UT351WN
電源		100Vへ(AC)、50/60Hz		
消費電力	ライトコントロール「オン」でライト出力7	170W	185W	
	ライトコントロール「オン」でライト出力1	90W	105W	
	ライトコントロールオフモード「ブライト」選択時	210W	225W	
	ライトコントロールオフモード「ノーマル」選択時	180W	200W	
待機消費電力	リモートOn無効時*5	0.12W		
	リモートOn有効時*5	–	–	1.9W
外形寸法*6		幅約338mm×奥行き約333mm×厚さ約153mm(突起部含む)		
質量*6		約5.7kg		

*1 ライトコントロールオフモード「ブライト」のとき。JIS X6911:2015準拠。
*2 出荷時における本製品の全体の平均的な値を示しており、JIS X6911:2015データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。
測定方法、測定条件については附属書2に基づいています。
*3 プラグインパワータイプのマイクロフォンには対応していません。
*4 本体背面のUSB-A端子に無線アダプターYW-40を接続。
*5 リモートOnの設定については、「ネットワーク設定→リモートOn」(34ページ)を参照してください。
*6 ケーブルカバーを除く

改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

GPLおよびLGPLについて

(1) 当社は、GNU General Public License（以下「GPL」という）およびGNU Lesser General Public License（以下「LGPL」という）の適用対象となるソフトウェア（以下「本ソフトウェア」という）を本製品に利用しています。
当社は、GPLおよびLGPLの定めに従い、本ソフトウェアのソースコードを開示しています。開示をご希望のお客様は、当社プロジェクターのダウンロードサイトからご確認ください。なお、本ソフトウェアを複製、改変、頒布する場合は、GPLおよびLGPLの条件に従ってください。

(2) 本ソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる保証もいたしません。但し、本製品の不具合（本ソフトウェアに含まれる不具合も含みます）に関する当社による保証条件には影響しません。

(3) 本ソフトウェアに適用されるGPLおよびLGPLの全文については、弊社ウェブサイトにてご確認ください。

HDMI®
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

CE

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com

CASIO

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA2102-F

© 2017 CASIO COMPUTER CO.. LTD.